

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-3

< 39週 > A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と手足口病の定点当たり
報告数が例年に比べかなり多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.4

< 腸管出血性大腸菌感染症 > 第39週の報告患者総数は100



病原体情報
P.5

患者から分離・検出された病原体報告 Vero毒素産生性大腸菌 /
手足口病 / ヘルパンギーナ / 無菌性髄膜炎 / 他



速報
P.6-8

ポリオワクチンの一時中止と再開



海外感染症情報
P.9-10

ヨーロッパの旅行に関連したレジオネラ症のサーベイランス / イエ
メンのリフトバレー熱 - 更新 / 他



感染症の話
P.11-14

マールブルグ病
1967年の最初の疾患発生の地名に由来
して称され、エボラ出血熱と同様に自然
界の宿主は不明である



読者のコーナー
P.15



グラフ総覧(39週)
P.16-22



39週のデータ
P.23-30



発生動向総覧

第39週コメント 10月6日集計分

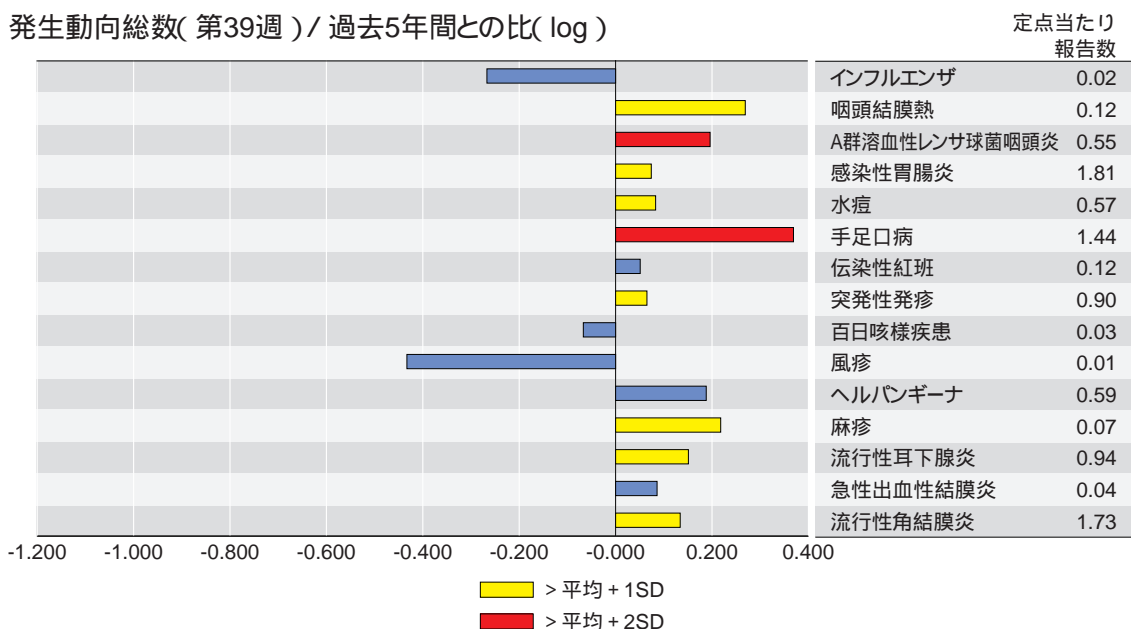
全数報告の感染症

- 1類感染症: 報告なし
- 2類感染症: コレラ1例(推定感染地: タイ)、細菌性赤痢14例(推定感染地: インド3例、インドネシア、ベトナム、中国各2例、タイ、カンボジア・タイ、エルサルバドル、モロッコ・イタリア、不明各1例)、腸チフス1例(疑似症例)、パラチフス1例(推定感染地: インド)
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症100例(うち29例が愛知県。愛知県では2件の保育園での集団感染事例が確認されている。)
- 4類感染症: アメーバ赤痢7例、Q熱1例、ジアルジア症1例、ツツガムシ病2例、日本紅斑熱1例、VRE1例、急性ウイルス性肝炎14例
 - A型2例
 - B型5例__うち性行為感染3例
 - C型5例__5例とも福岡県の透析施設内の集団感染事例
 - 不明2例
- 後天性免疫不全症候群12例(無症候性キャリア2例、AIDS6例、その他4例)
 - 感染経路__不明3例、性行為感染9例うち異性間5例、同性間4例)
- 梅毒3例(早期顕性1例、晩期顕性1例、無症状1例、先天性梅毒0例)
- マラリア1例(三日熱マラリア__推定感染地: インド)

定点把握の対象となる4類感染症(週報対象のもの)

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と手足口病の定点当たり報告数が例年に比べかなり多い。鳥取県では、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数4.1、手足口病の定点当たり報告数4.3と多くなっている。咽頭結膜熱、流行性耳下腺炎、流行性角結膜炎の定点当たり報告数も、例年に比べてやや多くなっている(手足口病、咽頭結膜熱、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の病原体については5ページ病原体情報参照)

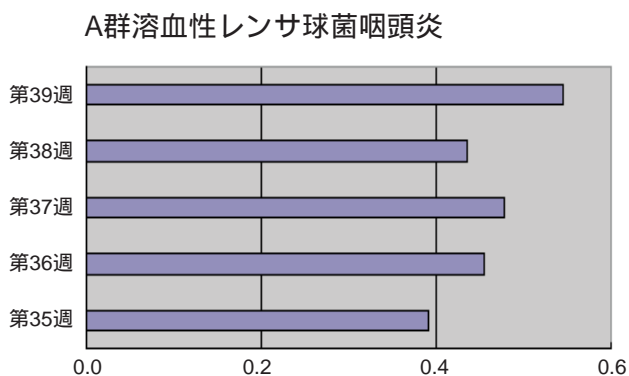
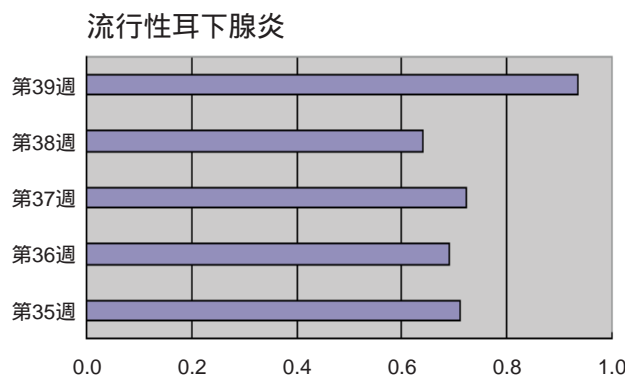
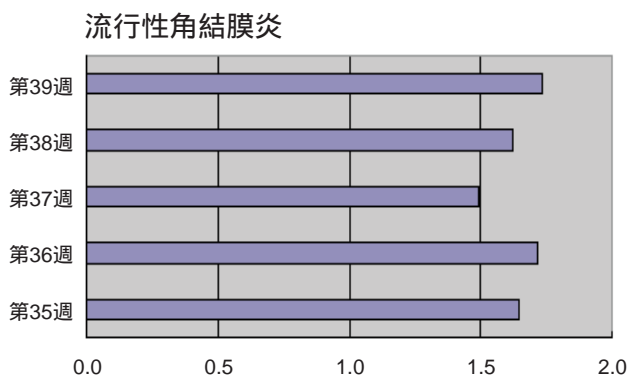
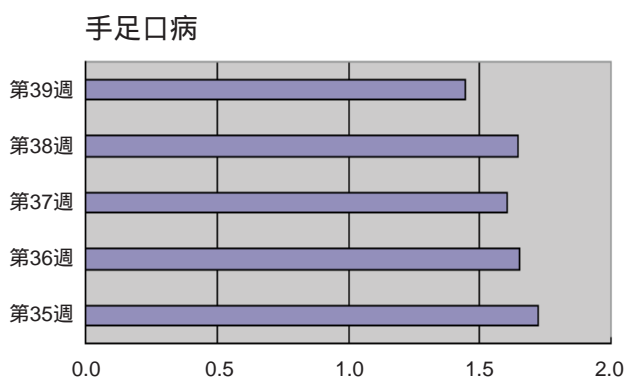
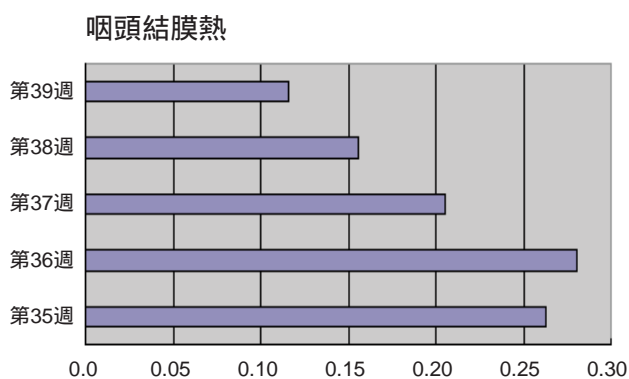
発生動向総数(第39週) / 過去5年間との比(log)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均) の比を対数にてグラフ上に表現した。1標準偏差を超えた場合黄で、2標準偏差を超えた場合赤で色分けしている。

最近の注目疾患-5週間の動き

流行性耳下腺炎はこのところ緩やかな減少傾向にあったが、今週は定点当たり報告数が前週に比べ顕著に増加している。流行性角結膜炎の定点当たり報告数は2週続けて増加している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は前週より定点当たり報告数が増加し、ここ5週間は全体として増加傾向を示している。手足口病は緩やかな減少傾向にあり、咽頭結膜熱は3週続けて定点当たり報告数が減少した。



(注) グラフの横軸は各疾患の定点当たり報告数(報告総数/定点総数)を表す。疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意。



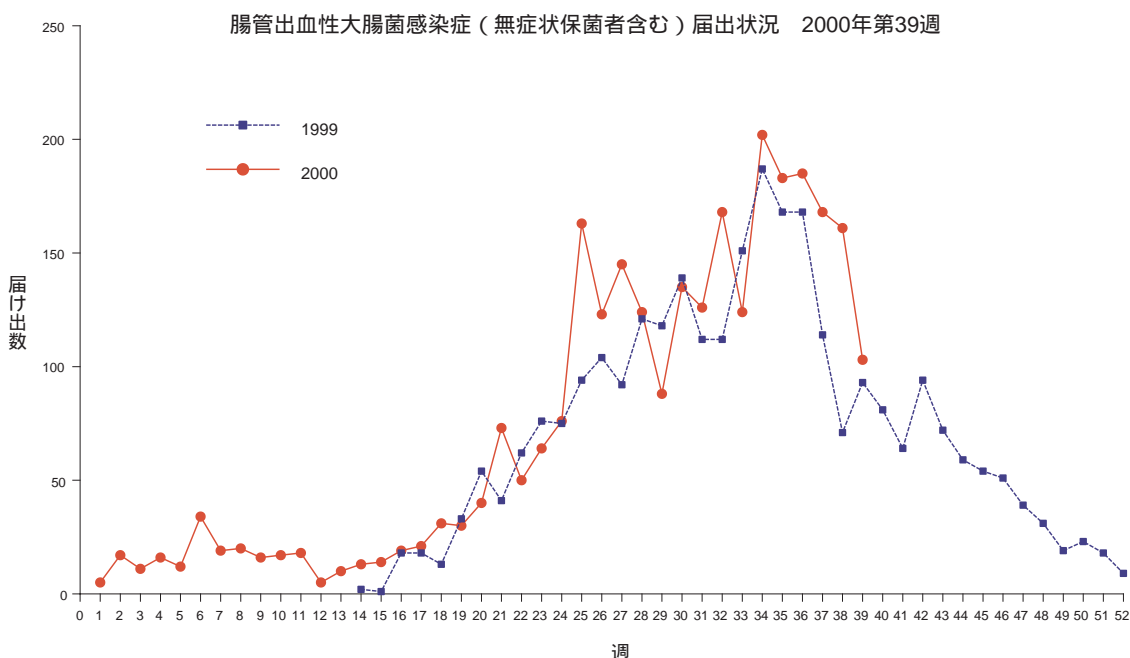
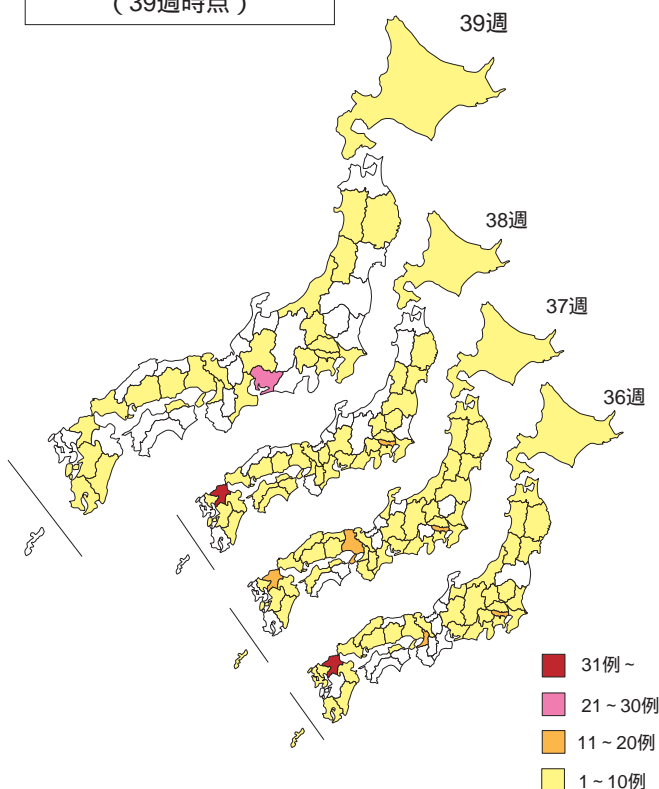
注目すべき感染症

腸管出血性大腸菌感染症流行状況

2000年第39週(9月25日 ~ 10月1日)の、腸管出血性大腸菌感染症報告総数(無症状病原体保有者含む)は100であった。

報告件数が多かった愛知県(29例)では、保育園内のO26集団感染事例が2件確認されているが、相互の関連性は明らかでない。その他は家族内発生例や、散発事例であった(Vero毒素産生性大腸菌O157、O26の検出状況については、5ページ病原体情報参照)。2000年第1週からの累積患者報告数は2,822となり、大阪府、東京都、神奈川県、愛知県、福岡県、兵庫県など大都市を含む都府県で累積報告数が多い。

腸管出血性大腸菌感染症
発生動向調査
(39週時点)





病原体情報

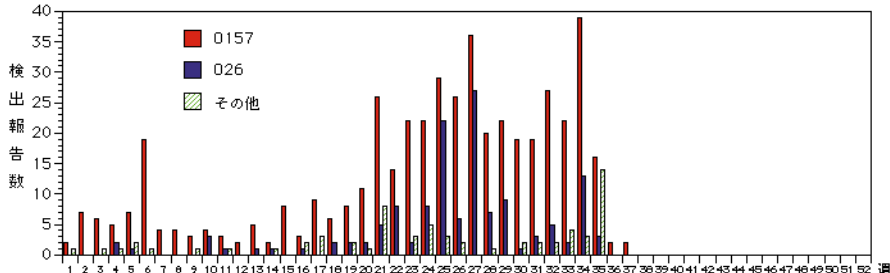
(2000年10月6日現在報告分)

*グラフはIASRホームページ(<http://idsc.nih.gov/iasr/index-j.html>)からの引用です。

ヒトから分離されたVero毒素産生性大腸菌O157およびO26 2000年

本年のVero毒素産生性大腸菌の検出総数は、O157が517件、O26が145件である。第35週以降、O157は大坂府8、尼崎市5、山梨県4、佐賀県3、富山県2、横須賀市、愛媛県各1、O26が札幌市、山形県、石川県、島根県各1の報告である。その他、O111が第35週に富山県で13件報告されている。

週別Vero毒素産生性大腸菌検出報告数、2000年 (病原微生物検出情報: 2000年10月3日現在報告数)



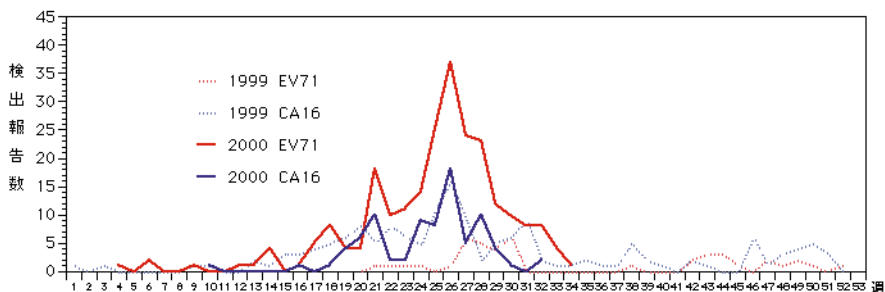
各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



手足口病患者から分離されたウイルス 2000年

エンテロウイルス71型(EV71)の分離は190件報告され、熊本県(35)、愛媛県(33)、神奈川県(25)、愛知県(14)からの報告が多く、第35週以降では岩手県から1件の報告である。コクサッキーウイルスA16型(CA16)は84件の報告、CA10は18件の報告である。

週別エンテロウイルス71型、コクサッキーA16型分離報告数、年別比較(1999年、2000年)
(病原微生物検出情報: 2000年10月3日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの検出報告を図に示した。



ヘルパンギーナ患者から分離されたウイルス 2000年

A群コクサッキーウイルス(CA)155件(10型60、4型42、6型32、2型14、8型2、9型2、3型1、5型1、7型1)の分離が報告されている。

無菌性髄膜炎患者から分離されたウイルス 2000年

エコーウイルス(E)145件(25型39、9型35、3型19、11型16、6型13、30型13、18型6、21型2、4型1、17型1)、B群コクサッキーウイルス(CB)74件(5型20、3型19、4型16、1型14、2型3、6型2)、エンテロウイルス71型(EV71)32件、ムンプスウイルス28件、CA10件(9型6、10型3、4型1)の分離が報告されている。

咽頭結膜熱患者から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス(Ad)94件(3型44、2型24、1型16、5型3、4型2、6型2、7型2、19型1)の分離が報告されている。

流行性角結膜炎から分離されたウイルス 2000年

アデノウイルス37件(4型8、8型7、3型6、37型5、11型4、19型3、1型1、2型1、6型1、7型1)の分離が報告されている。



ポリオワクチンの一時中止と再開

福岡県において、ポリオワクチン接種後にその因果関係は不明であるが、1例の急性脳症例と1例の急性弛緩性麻痺例(Acute Flaccid Paralysis:AFP)の報告が所管保健所より県に相次いであった(症例1: 4月2日、症例2: 5月15日)ため、5月16日福岡県は「厚生省の指示が出るまでポリオワクチンの使用を見合わせ」とし、同日厚生省は「AFP例はポリオワクチン440万接種あたり1人は発症し得るものであるが、無菌性髄膜炎および急性脳症の発生は確認されていない。しかし同一ロット(Lot.39)において両症例が発症していることを考慮し、安全確保の観点から因果関係の調査を行うこととし、その間Lot.39ポリオワクチンの投与を一時見合わせる」とした。

症例1は、ポリオワクチン1回目接種後14日目に急性脳症を発症、急激な経過をたどり発症から10日目に死亡した3歳2カ月女児例、症例2はポリオワクチン2回目接種後22日目に無菌性髄膜炎を発症し、引き続き右下肢のAFPがみられた1歳1カ月男児例である。

厚生省は直ちに情報の収集、因果関係の調査等を開始、臨床、基礎、疫学関係者に厚生省担当者を加えた調査班を構成し、5月23、24日に次のような現地調査を行った。

(1)報告症例に関する臨床情報を、初診医を含めた担当医師および関係者から聞き取り、症例2については診察も行った。

(2)報告症例に関するウイルス学的情報を、臨床情報と同様にして得るとともに、地方衛生研究所と今後の検査のすすめ方等について打ち合わせを行った。

(3)報告例に関連する疫学情報の収集として、ワクチン接種会場における同一バイアルのワクチン投与を受けた接種者の健康状態等について保護者への電話による問い合わせを行い、また当該地区における感染症流行に関する疫学情報の収集を行った。

(4)ワクチンの運搬、保存、投与等が適切に行われていたかの聞き取り調査を行った。

その結果、臨床的調査では、症例1は剖検が行われておらず病理学的検索はできていないが、患児の経過中に発熱や弛緩性麻痺はみられず、また延髄型ポリオや球麻痺とは異なるもので、患児の症状がポリオによって引き起こされたものとは考えにくいとされ、症例2はポリオの典型的症状であるAFPである可能性が高いとされた。

ウイルス学的には、症例1の便検体からはSabin 3型ポリオウイルスが分離され、髄液からのウイルス分離検査は陰性であった。症例2については反復して検査を行うこととしたが、この時点では便・髄液からのウイルス分離、髄液のポリオウイルスPCRなどはいずれも陰性であった。

疫学的調査では、聞き取り調査は両症例の居住地域で、当日ワクチン接種を受けた者に健康状態の異常者はいなかったことが確認された。感染症流行状況については、福岡県での手足口病の流行、症例2の患者周辺で複数の無菌性髄膜炎患者の発生があったことなどが確認された。

ポリオワクチン接種担当地域におけるワクチンの運搬、保存、投与は適切に行われていたことが確認された。

さらにLot.39のワクチンおよびそれを構成する1、2、3型の単価バルクに関する国家検定の結果に問題のないことが厚生省によって再確認され、ワクチン製造業者である(財)日本ポリオワクチン研究所に対して行ったGMP査察の結果、ポリオワクチンの品質に影響を及ぼすような問題は認められなかったことが確認された。

また、同時期に全国から報告された予防接種後副反応報告症例のうちポリオワクチン接種については、発熱、嘔吐、下痢などの軽微なものの160例のほか10例の注意すべき症例があった。これら10例の詳細について調査委員会で検討を行ったが、ワクチン接種および福岡県例との関連はいずれも否定的であった。

これらの調査がすすめられる中、2000(平成12)年5月17日、宮崎県において37歳の男性がAFPを発症したことが判明し、厚生省は専門家とともに直ちに現地調査を行った。当該患者は臨床的には麻痺型ポリオと診断されるものであることが確認された。患者本人のポリオワクチン歴は不明であるが、次女が2000年4月にポリオワクチンの接種を受けており、本人の便検体からはSabin 3型ポリオウイルスが分離された。また、後日の調査では父親が発症した後の次女の便検体からもSabin 3型ポリオウイルスが分離されたことが判明した。

以上の調査成績は、公衆衛生審議会感染症部会で審議(2000年6月7日開催)され、以下のような発表がなされた。

1. 次のような評価結果より、公衆衛生学的にはLot.39の製品であるポリオワクチンに問題はないと考えられる。

(1) 福岡県事例の現地調査結果報告より、症例1、すなわち3歳女児の脳症、死亡例については、ポリオワクチン接種との因果関係は否定的である。

(2) 福岡県事例の現地調査結果報告より、症例2、すなわち1歳男児の右下肢単麻痺、無菌性髄膜炎例について、麻痺はポリオの典型的な症状である弛緩性麻痺が認められ、臨床的には、被接種者から麻痺患者が出る割合で想定されるポリオワクチン接種に伴う副反応例の可能性が否定できない。

(3) 全国から報告された健康被害症例(小児接種者10例を詳細に検討)については、ポリオワクチンとの直接の因果関係、福岡県の事例との関係はいずれも否定的である。

(4) 宮崎県の37歳男性の麻痺例については、ポリオワクチンの予防接種を受けた子供からの二次的な感染が疑われるが、接触者から麻痺患者が出る割合で想定されるポリオワクチンの接種に伴う事例と考えられる。

2. Lot.39の製品であるポリオワクチンの予防接種の見合わせの解除に関しては、6月15日の中央薬事審議会における品質等製品としての安全性の審議結果を踏まえること。また、わが国においてポリオワクチン接種を継続すべきであり、その再開の時期については、国民の十分な理解を得る努力、エンテロウイルスの流行状況等も考慮した上で慎重に行うことが必要である。については、以下の点に留意すること。

(1) 予防接種法に基づくポリオワクチンの予防接種については、秋の予防接種に間に合うように公衆衛生審議会感染症部会の下に次の内容について審議する小委員会を設置し、円滑な実施ができるよう環境整備を図る必要がある。

- ① 国民への啓発
- ② 今後、このような事例が起きた際の対処方法
- ③ 将来のポリオワクチン予防接種のあり方

(2) 今回の見合わせにより予防接種法に基づくポリオワクチンの予防接種の機会を失った者については、適切な配慮を行うこと。

(3) 2-(1)にかかわらず、海外渡航時等予防接種の緊急性が高い場合の個別の予防接種を行うことを妨げるものではない。

さらに中央薬事審議会医薬品等安全対策特別部会(2000年6月15日開催)では、

(1)国立感染症研究所において実施したLot.39のポリオワクチンおよびそれを構成する1型、2型、3型の単価バルクに関する国家検定の結果を厚生省が再確認したところ、特に問題は認められなかった。

(2)製造業者である(財)日本ポリオ研究所に対し、厚生省がLot.39のポリオワクチンおよびそれを構成する1型、2型、3型の単価バルク等についてGMP査察を行ったが、検定項目の自家試験成績を含め、特にその品質に影響を及ぼすような問題は認められなかった。

とし、以上のような結果により、2000年6月7日に開催された公衆衛生審議会感染症部会と同様、Lot.39ポリオワクチンについては、品質・安全性に問題はないと考えられる、と結論づけた。

今秋からのポリオワクチンの再開に向け、厚生省ポリオ予防接種検討小委員会では、ポリオおよびポリオの予防接種についての一般向け、あるいは一般の方からの質問に対して自治体職員等が答える際に参考となるような小冊子の作成、再びこのような事例が生じた場合の行政的対応のためのマニュアルの作成、ポリオワクチンをめぐる最近の状況のまとめと将来についてのまとめの作成を行い、2000年8月31日の公衆衛生審議会感染症部会で了承された。また、この場で福岡県の症例2についての最終的なウイルス学的検査結果が報告され、ポリオワクチンとの関係は考えられない、とされた。

ポリオワクチンをめぐる最近の状況のまとめと将来については、

(1)今秋のポリオ定期接種から例年従来通りの高い接種率に戻すように努力しなければならない。

(2)当面は現行の経口生ワクチン接種を継続する必要がある。

(3)世界的根絶はそう遠くない将来にあり、やがてポリオワクチンは中止できる可能性があり、それまでの段階として生ワクチン単独方式にこだわることなく、わが国における不活化ワクチン導入などの接種方式の検討が必要である。

(4)より具体的な方針については今秋予定されているWHO西太平洋地域におけるポリオ根絶宣言以降、改めて公衆衛生審議会等の場で議論する必要がある。

などをその主な内容としている。

国立感染症研究所感染症情報センター 岡部信彦

(IASR10月号掲載予定記事より抜粋・一部改編、詳細は同号参照)



海外感染症情報

ヨーロッパの旅行に関連したレジオネラ症のサーベイランス

Eurosurveillance weekly 2000年10月5日

EWGLI(European Working Group on Legionella Infections)はレジオネラ症の患者から得られた疫学的データを持っている31カ国の共同研究者をネットワークで結び、情報を交換しあう組織である。これによって、多くの国へばらばらに帰っていった旅行者から感染した患者を検出することができる。たとえ、ある国で1人の患者しか出ていなくても、複数の国からも同じ場所を訪れた人に患者が出ていれば関連が疑われる。最近、数年間の旅行に関連したレジオネラ症患者集団の40%以上が、EWGLIによる情報なしには発見することができなかったと考えられる。

EWGLIは旅行者が宿泊した場所を調査するが、ホテルなどの宿泊施設の名前は公表していない。実際、1例もしくはそれ以上の症例があったホテルが必ずしも発生源であるとは限らないからである。しかし、そこに宿泊した患者の数が増えると、その宿泊施設が感染源である可能性が高くなる。1998年と1999年に環境調査結果が明らかになっていて集団発生があった8カ所では、レジオネラ菌は陽性であった。孤発例では、感染源は彼らが訪れたレストラン、スイミングプール、ツーリスト向けのアトラクションかもしれない、また隣のビルの冷却塔が感染源であるかもしれない。しかしホテルの名前を公衆衛生当局と旅行会社に伝えることは彼らの調査の第一歩になる。

旅行に関連したレジオネラ症のヨーロッパのサーベイランス組織は、他の国際的なサーベイランス組織のように、自発的に各国から提供される情報が基盤となっている。情報は秘密厳守され、公共の保健活動に責任のある関係者及び旅行会社にのみ使われるという原則に基づいており、国々は情報を提供している。一般の人々は自分たちの健康に影響のあるこれらの情報を求めており、EWGLIの共同研究者たちは、情報をより広く伝えていく方法を議論する一方で、協力国にこれからも症例と発生場所を報告し続けてもらえるように努力している。

1999年、300にもものぼる症例がEWGLIと共同研究している国々から報告された。サーベイランス組織によって集められたデータはインターネット(<http://www.ewgli.org>)上で公開されている。

イエメンのリフトバレー熱 - 更新

WHO/CSR 2000年10月3日

10月2日現在、イエメンで死者32人を含む321人のリフトバレー熱疑い(*suspected*)患者が報告されている。

イエメンでは医師および獣医師からなる8チームが流行地域で積極的にサーベイランスを行っている。流行の中心はHodeidar行政区のWadi MawrおよびEl-Zuhrah地方である。患者の平均年齢は36.5歳(2カ月から90歳)であった。Wadi Mawr全域で確定診断された患者が発生している。検査室ではリフトバレー熱ウイルスに対するIgMおよびIgGクラス抗体を検査する態勢が確立した。

59例の感染疑い患者のうち29例(51%)に抗リフトバレー熱ウイルスIgM抗体が確認された。流行地域および隣接するWadisからの動物の調査の結果は、数日以内で明らかになる。症例の大部分がWadi Mawrで報告されているが、流行サーベイランスを行った結果、ヒツジ、ヤギおよびウシに高率の罹患率と死亡率が認められている。リフトバレー熱が拡大する危険がある地域を選定するために、流行地においてヒトと動物のサーベイランスが行われている。ヒトと動物のサー

ベイランスデータは、媒介蚊対策の実施目標となるハイリスク地域を決定するために使用されている。検査方法のトレーニング、媒介蚊対策およびサーベイランスを含めて流行に対応するため現地の対応能力向上に関する努力が行われている。

この流行はサウジアラビアのリフトバレー熱の流行と同時に起こった。WHOはイエメンおよびサウジアラビア両国での出入国は制限されていないと発表している。流行地域に旅行する人は長袖のシャツおよび長ズボンを身につけ、蚊避け剤や蚊帳を使用し、感染動物に接触しないように勧告している。

米国の西ナイルウイルス患者が18人に増加 - 更新

Health Canada 2000年9月29日

New York City Press Release 2000年10月4日

ニューヨーク市において10月4日までに14人が西ナイルウイルス感染症と診断された。10人がスターテン島の住人で、3人がブルックリン、1人がクイーンズの住人であった。12人は自宅で療養中で、ブルックリンの2人が入院中であり、そのうちの1人が昏睡に陥っている。

ニュージャージー州では9月29日までに4人が西ナイルウイルス感染症と診断され、そのうち82歳の男性1人が死亡した。



感染症の話

マールブルグ病(Marburg Disease)

1967年8月西ドイツ(当時)のマールブルグ(Marburg)、フランクフルト、およびユーゴスラビアで突如熱性疾患が発生した。ポリオワクチンの製造のためウガンダから輸入したアフリカミドリザルの解剖、腎臓、血液に接触したりその片付けを行った人々(25名)の間で熱病が発生したものである。2次感染は患者に接触した医療関係者等6名に見られたが、死者は出なかった。同じウガンダから輸入されたサルを取り扱ったベオグラード(ユーゴスラビア)でも2名が感染した。最初の発生地に因みマールブルグ病(Marburg Disease)と称されるようになった。別名ミドリザル出血熱(Vervet monkey hemorrhagic fever)とも呼ばれる。その後アフリカのケニア、ジンバブエ、ザイール(現コンゴ民主共和国)等で発生があったがいずれも1~2名で、エボラ出血熱のような多数の感染者、死者を出した例はない。

ウイルス性出血熱のひとつである。

表1. ウイルス性出血熱と出血を生ずるウイルス病

疾患名(登場年)	ウイルス(科)	自然宿主と感染経路	分布地域
ラッサ熱(1969)	ラッサ(アレナ)	マストミス ヒト ヒト; まれに院内感染	西アフリカ一帯
エボラ出血熱(1976)	エボラ(フィロ)	不明 ヒト ヒト; 不十分な医療用具による看護、介護での感染	アフリカ中央部
マールブルグ病(1967)	マールブルグ(フィロ)	不明 ヒト ヒト/サル ヒト ヒト	アフリカ中東南部
クリミア・コンゴ出血熱(1945, 1956)	コンゴ(ブニヤ)	哺乳動物 ダニ ヒト ヒト; しばしば院内感染	アフリカ全土、中近東、中央アジア、インド亜大陸、東欧、中国
南米出血熱	フニン、マチュボ、グアナリト、サヒア(アレナ)	アルゼンチン出血熱、ボリビア出血熱、ベネズエラ出血熱、ブラジル出血熱 野ネズミ ヒト	南米
黄熱	黄熱(フラビ)	蚊 ヒト	アフリカ、中南米
腎症候性出血熱	ハンタ(ブニヤ)	野ネズミ ヒト	アジア、欧州
ハンタウイルス肺症候群	ハンタ(ブニヤ)	野ネズミ ヒト	米国
リフトバレー熱	リフトバレー(ブニヤ)	蚊 ヒト	アフリカ全域、中近東
デング出血熱	デング(フラビ)	蚊 ヒト	東南アジア、インド、中南米

VHF: クラス4病原体、ヒトからヒトへの感染が見られる。 クラス4病原体、ヒト ヒト感染はまれ。 クラス3病原体(CDCでは、ハンタウイルス肺症候群についてはクラス4扱いとしている。)

疫学

マールブルグ病の発生にサルが関与したのは1967年のマールブルグのみで、以後のアフリカでの発生ではサルとの接触は全く知られてはいない。エボラ出血熱同様自然界の宿主は不明であり、どのような経路で最初のヒトへ病原体が伝播するかについても謎のままである。

今までエピソードはドイツ以外ではアフリカで4回ある。

- ①1975年ジンバブエ - 南アフリカ: 2月15日ジンバブエ(当時ローデシア)からヒッチハイクで南アフリカ入りした21歳の白人男性(オーストラリア人)は12日以来筋肉痛、嘔吐、発熱等の症状でヨハネスブルグ総合病院を訪れた。直ちに入院し18日出血傾向で死亡した。DICと肝不全を伴っていた。翌日同行者の女性と患者を介護した看護婦が26日に発症したが、2名は回復した。

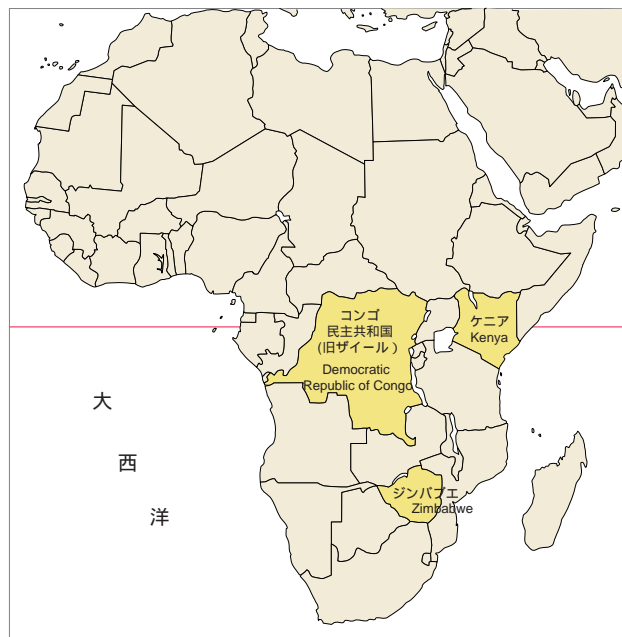
最初の死亡患者の種々の材料から電顕によりウイルス粒子、免疫蛍光法により特異抗体が検出された。この折にヒッチハイクした道沿いにヒト、動物、虫等の血液等を集めて検査がなされたが、陽性例(ウイルス分離、抗体)はなかった。また旅行者は途中サルとの接触はまったくなかった。しかし一定の距離はあったが、コウモリ、サル、野鳥等からのエアロゾル感染は否定できない状況にはあったという。

②1980年ケニア:1月8日ケニア西部の砂糖工場で働いていた56歳のフランス人技師が突如熱性疾患に陥った。頭痛、筋肉痛、倦怠感を主症状とし3日目から下痢、嘔吐が始まった。15日にナイロビの病院に移送されたが吐血を繰り返していた。黄疸が強く大量下血で虚脱状態にあり到着後6時間で死亡した。治療に当たった医師は9日後の24日に発症し、高熱、頭痛、背部痛、咽頭痛、下痢がみられた。このときの血清から米国CDCで抗体上昇が確認され、Vero細胞でウイルスが分離できた。電顕上粒子も確認された。最初の患者は発症2週間前に近くの大量のコウモリの生息するElgon洞窟に入っていることと、近くの森で動物や鳥に餌をやっているなどが感染の機会としてあげられるがはっきりした証拠はない。

③1987年ケニア:ケニアの西方の公園(フランス人が感染したと思われる周辺)を訪れた少年が、感染、発症し死亡した。2次感染はみられなかった。

④1999年コンゴ民主共和国:4月、コンゴ民主共和国のWarsa地区(ウガンダ国境近く)でウイルス性出血熱様症状の患者が発生し、23日に死亡した。患者検体(血液)は直ちに南アフリカのヨハネスブルグのウイルス研に送付され、マールブルグウイルスが確認された。他の4名の同様症状を示したという疑似例では陰性であった。同じころ近くのDurbaでもウイルス性出血熱様の集団発生があったといわれるが、ウイルス学的確認がなされてはいない。

図1 マールブルグ病の分布



病原体

マールブルグウイルスはエボラウイルスと同様にフィロウイルス科(Filoviridae)のメンバーである。抗原性は異なり交差しないが電顕上の形態は酷似している。エンベロープを持ち桿菌状で平均長径が790nmである。短径は80-90nmである。長径は時に1,500-2,300nmにも達する。粒子は非対称でひも状、ゼンマイ状等多形を示す。遺伝子は核酸として1本鎖RNAを有し、分子量は4.6x10⁶Daである。ウイルスはVero細胞、BHK細胞などで細胞変性効果を示す。実験的にはアカゲザル、ミドリザル、モルモット、ハムスター、マウス等で100%感染を起し致命的となる。自然界におけるこのウイルスの宿主は今もって不明であり、どのようにしてヒトにウイルスが伝播されるかも全くわかってはいない。ヒトからヒトへの感染は感染者や患者の血液、体液、分泌物、排泄物などの汚染物との濃厚接触による。手袋等の防護策で感染は防げるとされ、医療の場での空気感染による拡大はないとされる。

臨床症状

感染総数に対する発症者の比率はよくわからない。潜伏期間は3-10日である。初感染では3-7日で症状はエボラ出血熱に似ており、発症は突発的である。発熱、頭痛、筋肉痛、背部痛、皮膚粘膜発疹、咽頭痛が初期症状としてみられる。激しい嘔吐が繰り返される。1-2日して水様性下痢がみられる。診断上皮疹は重要で、発症後5-7日で躯幹、臀部、上肢外側等に境界明瞭な留針大の暗赤色丘疹が毛根周辺に現れる。重症化すると散在性に暗赤色紅斑が顔面、躯幹、四肢にみられる。

表2. ウイルス性出血熱の臨床症状、診断、治療

疾患	潜伏期間	症状	診断法	治療法
ラッサ熱	7~18日	発症は突発的、進行は徐々 高熱(39~41℃)、全身倦怠感 3~4日目に大関節痛、咽頭痛、咳、次いで 心窩部痛、後胸部痛、嘔吐、下痢、腹部痛 重症化すると、顔面頸部浮腫、結膜・ 消化管出血、心嚢・胸膜炎	① 血液、尿からのウイルス 分離 ② IFAやELISAによる抗体 検出	リバビリン(日本では 市販されていない)を 発症直後に用いると 有効 (死亡率:90% 10%に) ワクチンはない
エボラ出血熱	2~21日	発症は突発的 主症状はインフルエンザ様、発熱、頭痛(100%)、 腹・胸部痛、咽頭痛(80%) 出血は死亡例の90%以上	① 血液などからウイルスを 分離 ② 抗体上昇を確認する (IFA, ELISA)	対症療法のみ ワクチンはない
クリミア・コンゴ 出血熱	2~9日	非特異症状、発症は突発的 発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛、関節痛 重症化すると、全身の出血、血管虚脱 死亡例では消化管出血、肝・腎不全 感染者の発症率は約20%	① 発症1週間以内に血液 からウイルスを分離 ② 抗体上昇を確認 (IFA, CF)	対症療法のみ ワクチンはない
マールブルグ病	3~10日	発症は突発的 発熱、頭痛、筋肉痛、皮膚粘膜発疹、咽頭結膜炎 重症化すると下痢、鼻口腔・消化管出血	① 血液からウイルスを分離 ② 抗体上昇の確認	対症療法のみ ワクチンはない

IFA:免疫蛍光抗体法、 ELISA:固相酵素免疫検定法、 CF:補体結合反応

病原診断

血液等からウイルス分離する(最高度安全実験施設P4が必要)。迅速診断にはELISAや免疫蛍光法で抗体を検出する。あるいはPCR法等でウイルス遺伝子を検出する。対象検体は血液、咽頭ぬぐい液、胸水、体液、その他組織等である。発症2カ月して症状は軽快しても精液、眼前房水等からウイルスが分離された例がある。

治療・予防

感染予防ワクチンはない。また対症療法以外の特異的治療法もない。

発生動向調査

患者や検体に接触した医療関係者や家族については表のような考え方で一定期間監視が必要な場合は実施する。

表3

接触の意味

ウイルス性出血熱 (VHF) 患者との接触の際の対応

患者接触者 : (このウイルスは空気感染は否定されている。)

通常の接触 : ホテルで同宿、飛行機で同乗者はサーベイランスの必要はない。

リスクのある接触者 : 患者と同居、介護、看護にあたった人、握手したり、患者を抱擁した人、患者検体を取り扱った人、等については患者の診断が確定した時点で監視下に置く。症状がないかぎり入院の必要はない。検温は1日2回実施する。38.3 以上の発熱、その他いかなる症状も詳細に記録し、最終接触後3週間は監視する。

ハイリスクの接触 : 患者と粘膜の接触の会った人、即ちキス、性行為等、あるいは患者の分泌物、排泄物、血液、組織、体液等を扱う際に針刺しや傷口に直接接触れる等があった人については、VHFの診断がつきそうな時直ちに監視下に置く。接触者が38.3 以上の発熱を示したり、いかなるVHFの症状を示した時も直ちに収容しVHFの患者としての取り扱いをする。

感染症法の中でのマールブルグ病の取扱い

マールブルグ病は、1類感染症に定められており、診断した医師は直ちに最寄りの保健所に届け出る必要がある。類似患者、患者、無症状病原体保有者のいずれであっても届け出は必要である。報告のための基準は、以下の通りとなっている(平成11年3月30日、厚生省結核感染症課長通知)。

当該疾患を疑う症状や所見があり、かつ、以下の方法によって病原体診断または血清学的診断がなされたもの。

(材料)血液、尿、咽頭スワブ等

- ・病原体の検出
例:ウイルスの分離など
- ・抗原の検出
例:ELISA法による特異抗原の検出など
- ・病原体の遺伝子の検出
例:PCR法など
- ・血清抗体の検出
例:免疫蛍光法、ELISA法など

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体か抗原が検出されたもの

(病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものを含まない)

疑似症の診断

臨床的特徴に合致し、以下の疾患の鑑別診断がなされたもの

(鑑別診断)他のウイルス性出血熱、チフス、赤痢、マラリア、デング熱、黄熱等

《備考》

当該疾患を疑う症状や所見はないが、病原体や抗原は検出されず、遺伝子や抗体のみが検出されたものについては、法による報告は要しないが、確認のため保健所に相談することが必要である。

学校保健法の中でのマールブルグ病の取扱い

マールブルグ病は学校において予防すべき伝染病第1種に定められており、治癒するまで出席停止となる。

(国立感染症研究所副所長 倉田 毅)



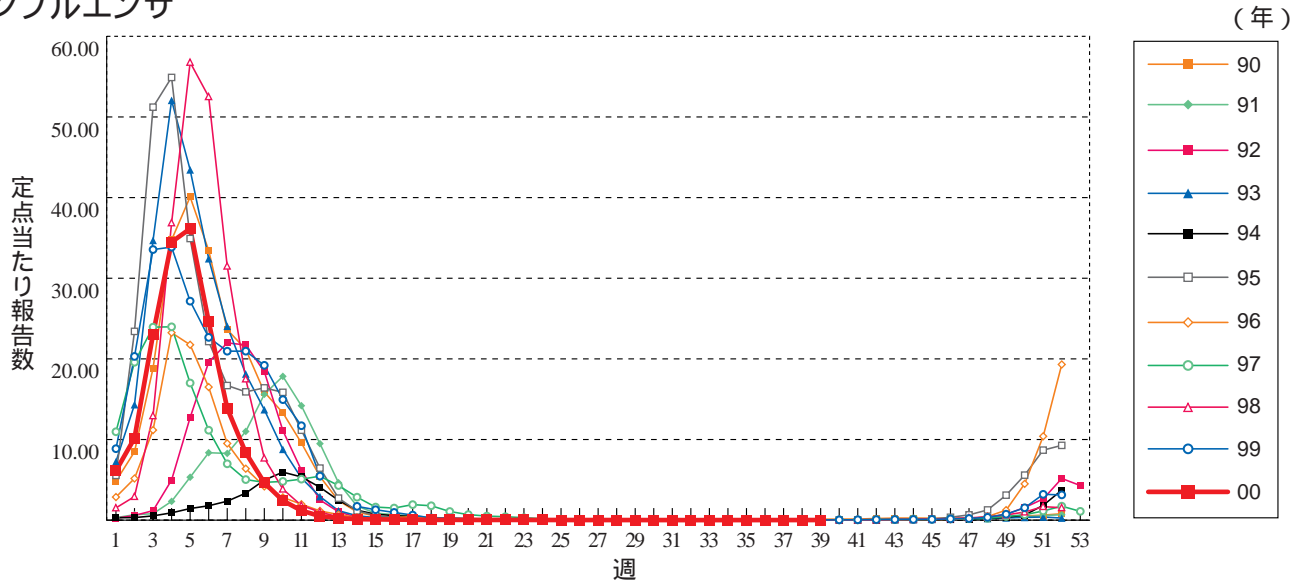
読者のコーナー

「読者のコーナー」では読者のみなさまからのご意見・ご質問をお待ちしております。
ご意見・ご質問は、題名(タイトル)の一番はじめにidwr-Q:をつけてこちらまでEメールでどうぞ。

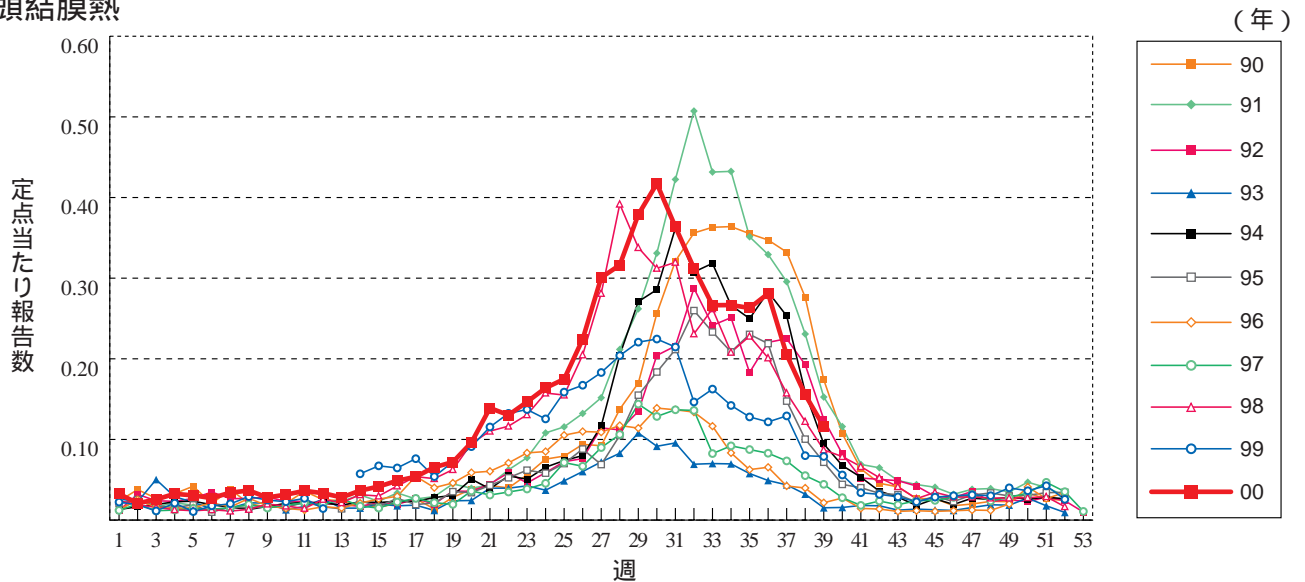
idsc-query@nih.go.jp

グラフ総覧(39週)

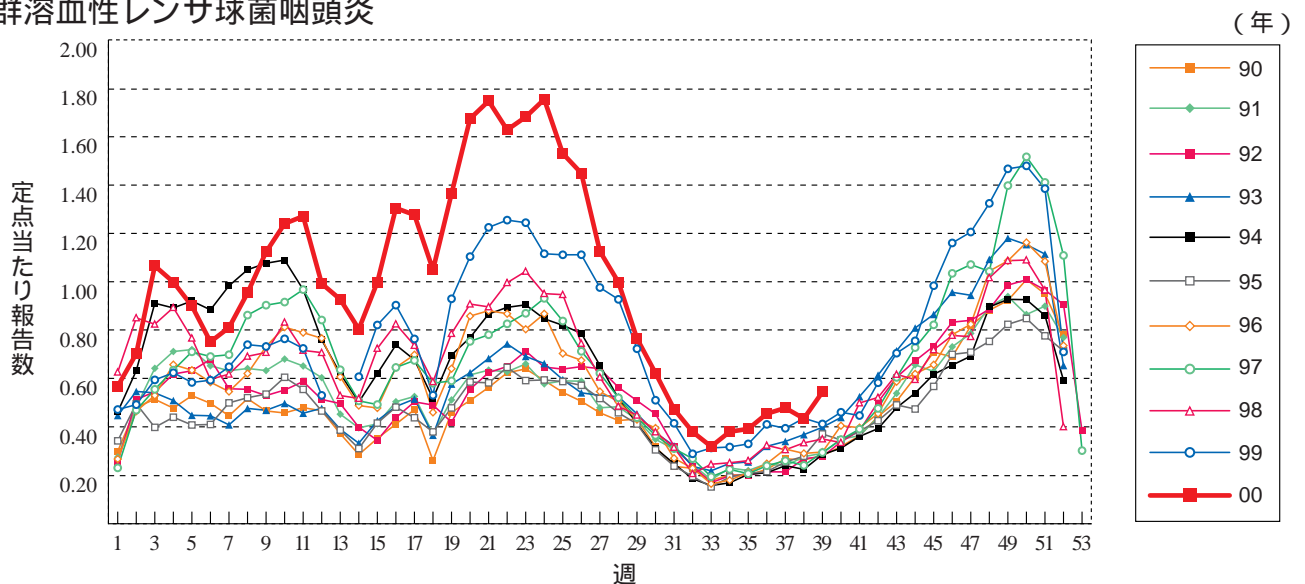
インフルエンザ



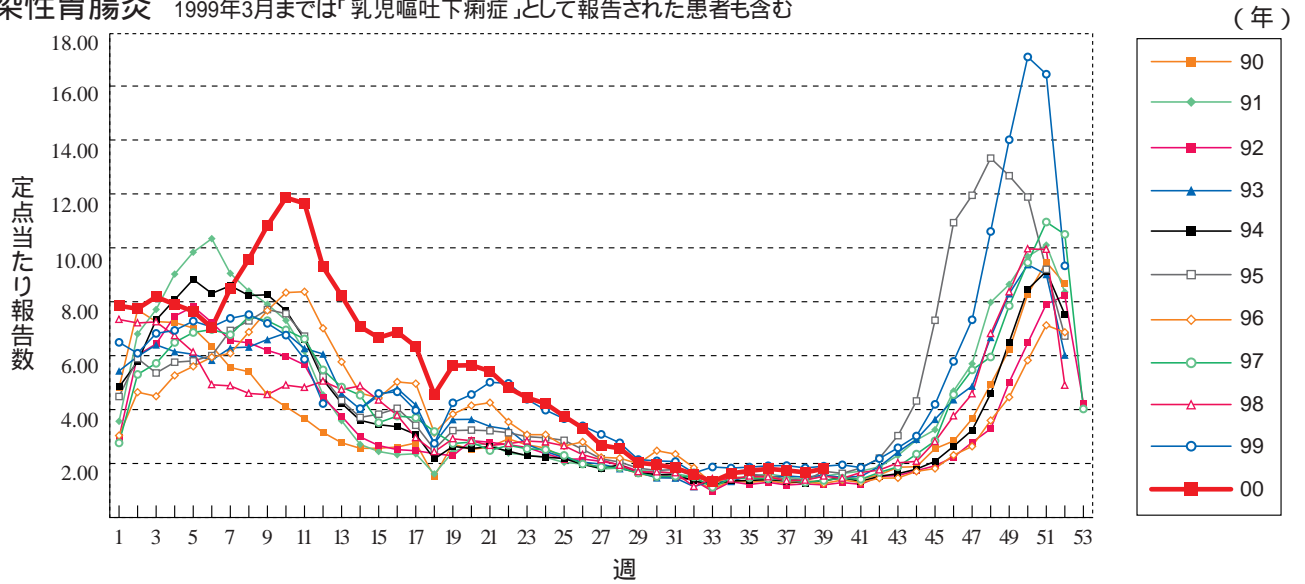
咽頭結膜熱



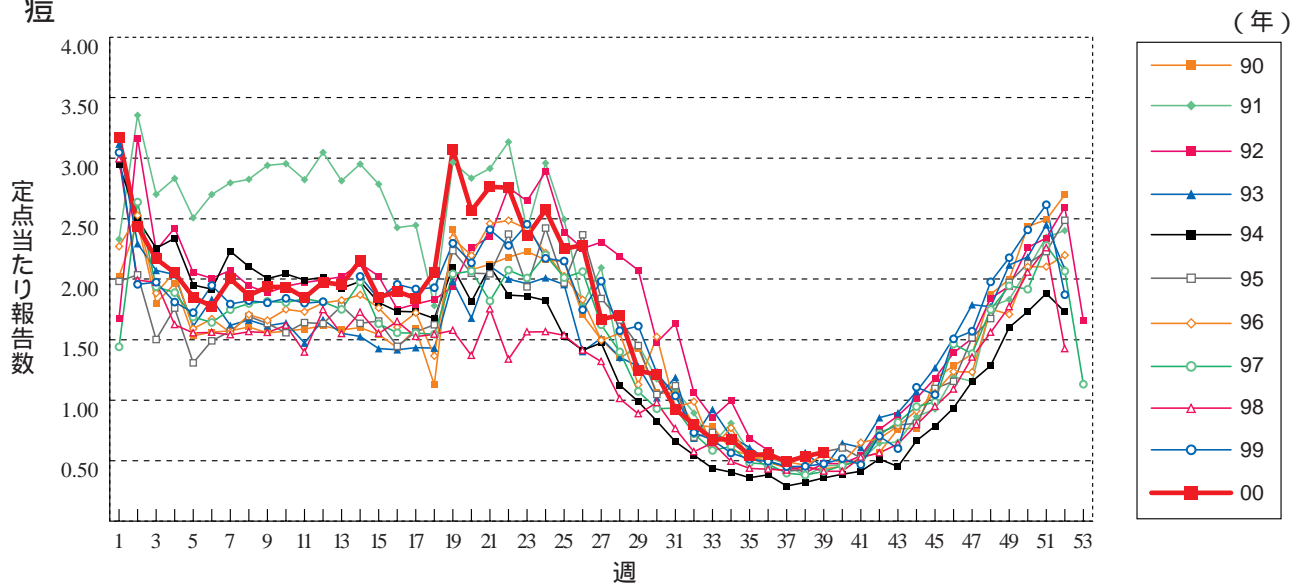
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



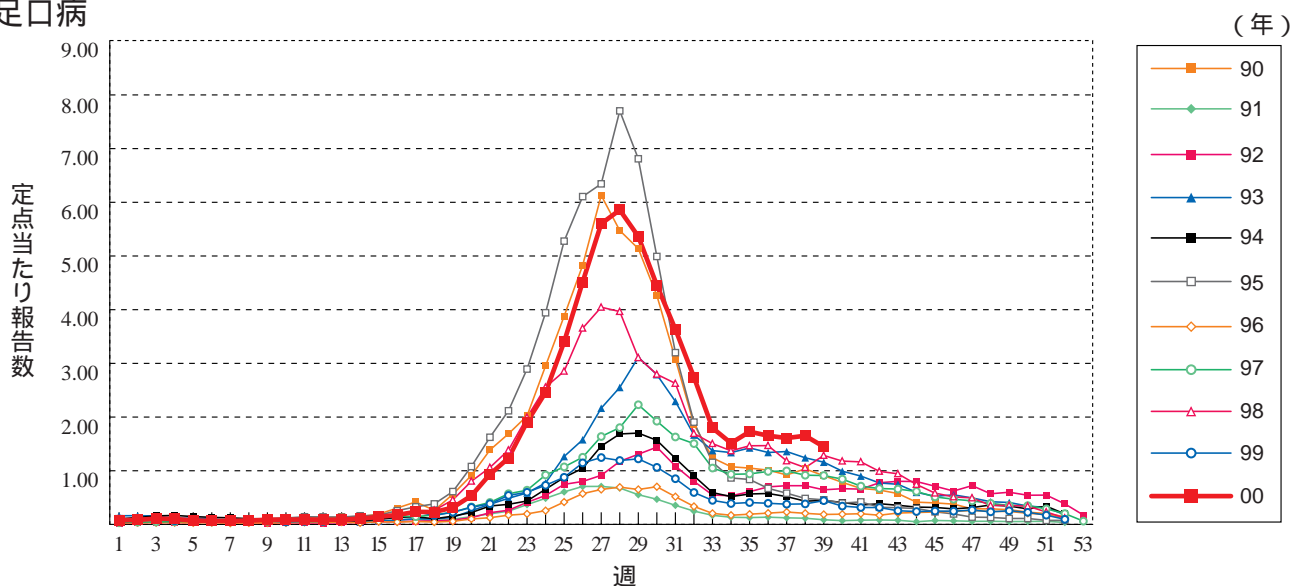
感染性胃腸炎 1999年3月までは「乳児嘔吐下痢症」として報告された患者も含む



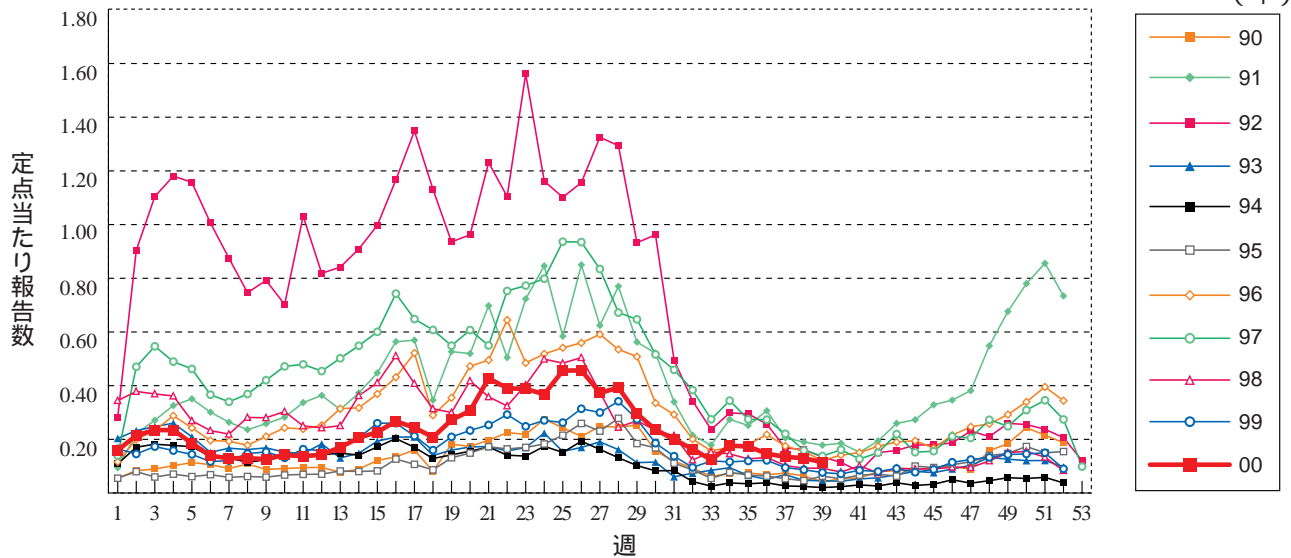
水痘



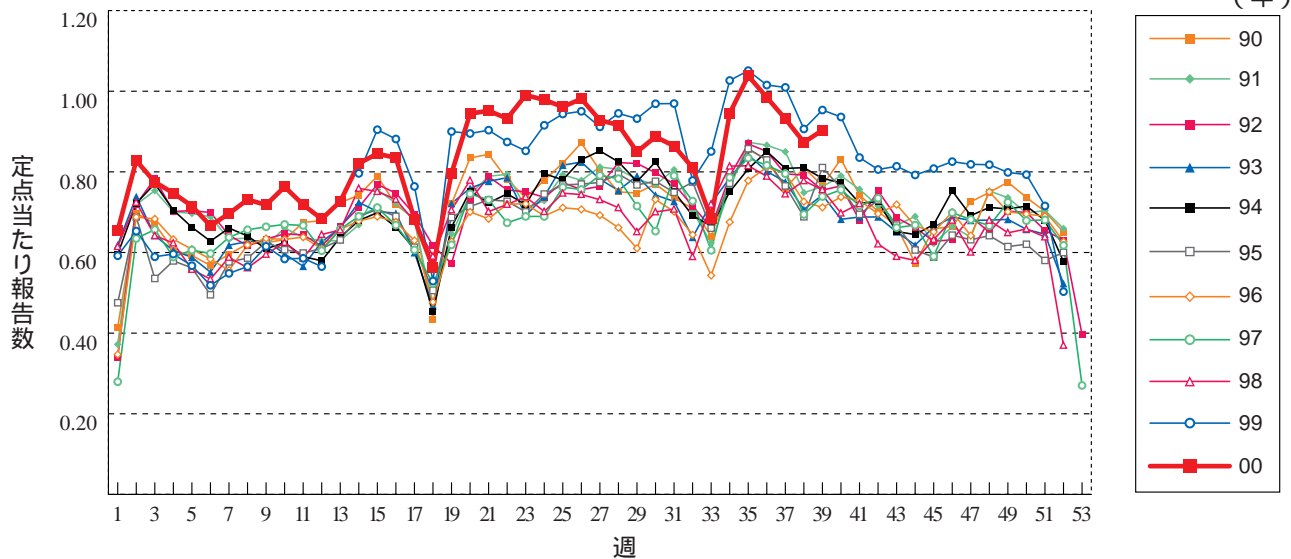
手足口病



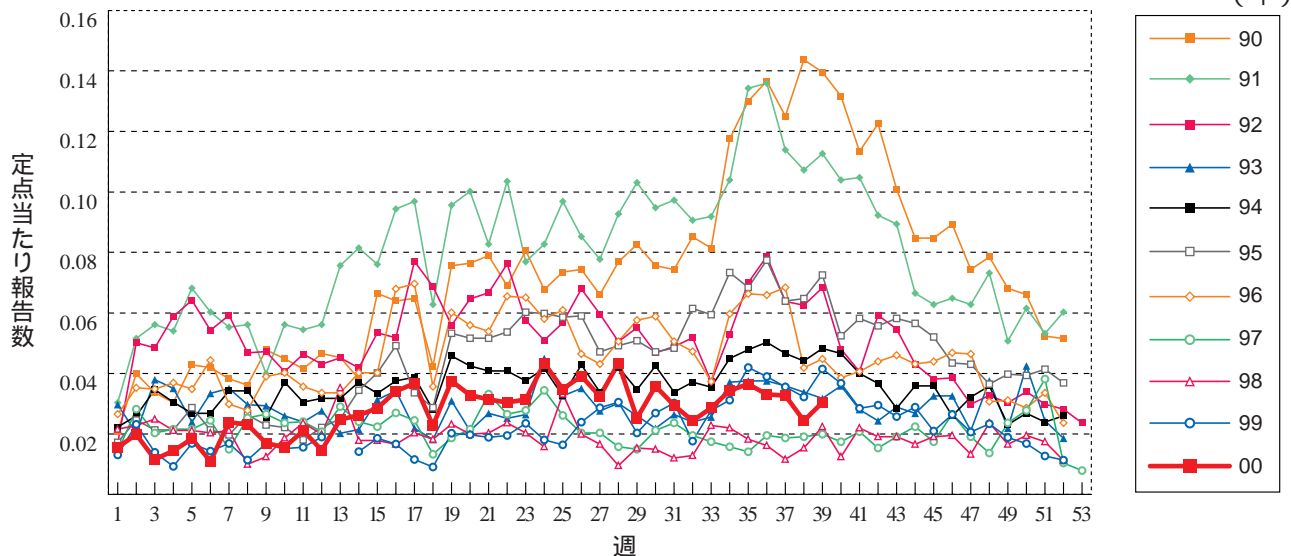
伝染性紅斑



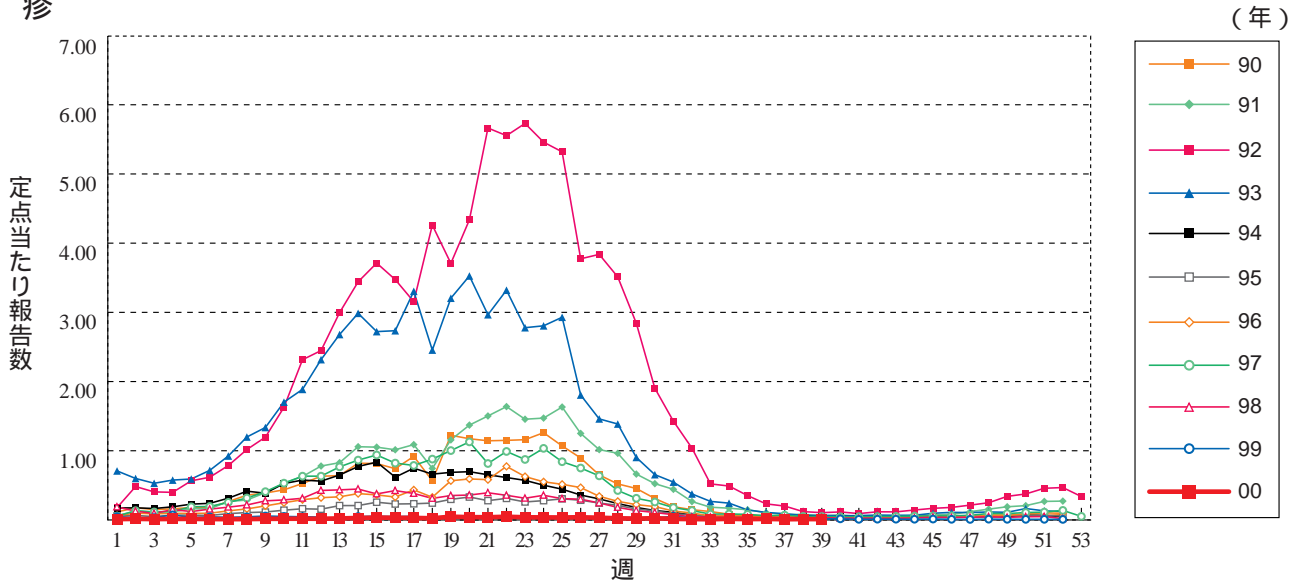
突発性発疹



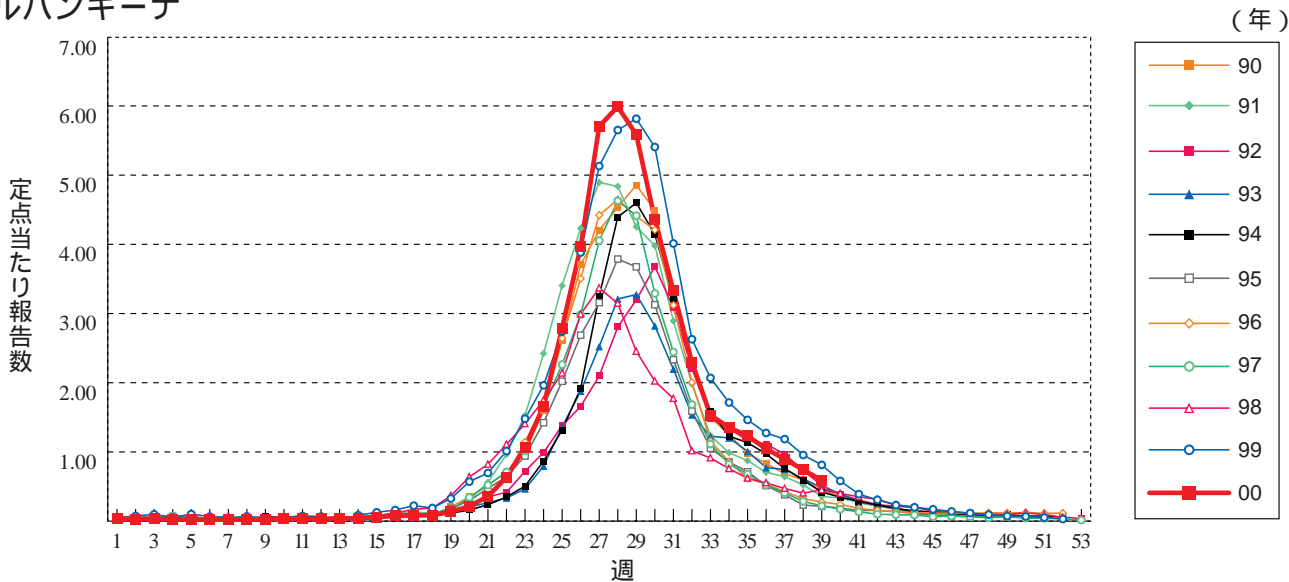
百日咳



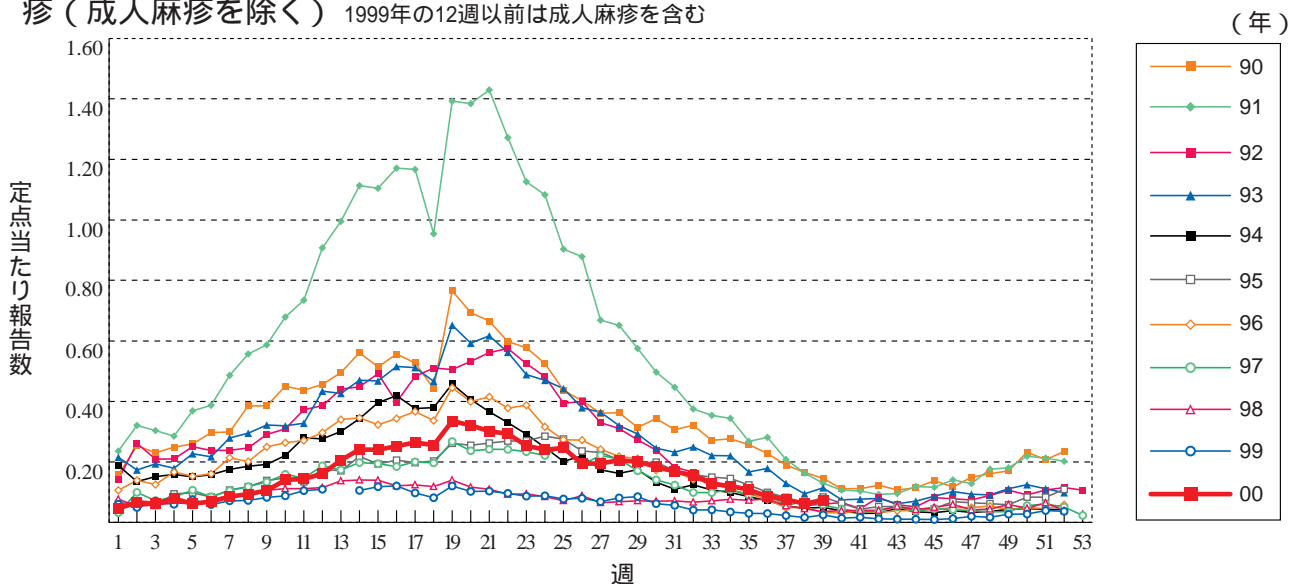
風 疹



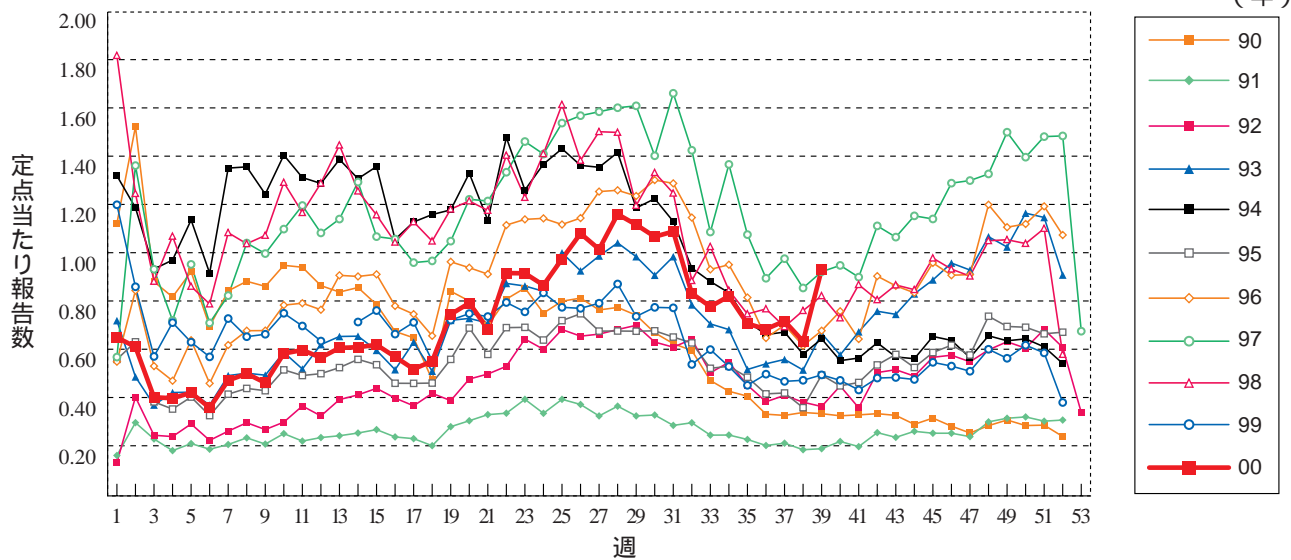
ヘルパンギーナ



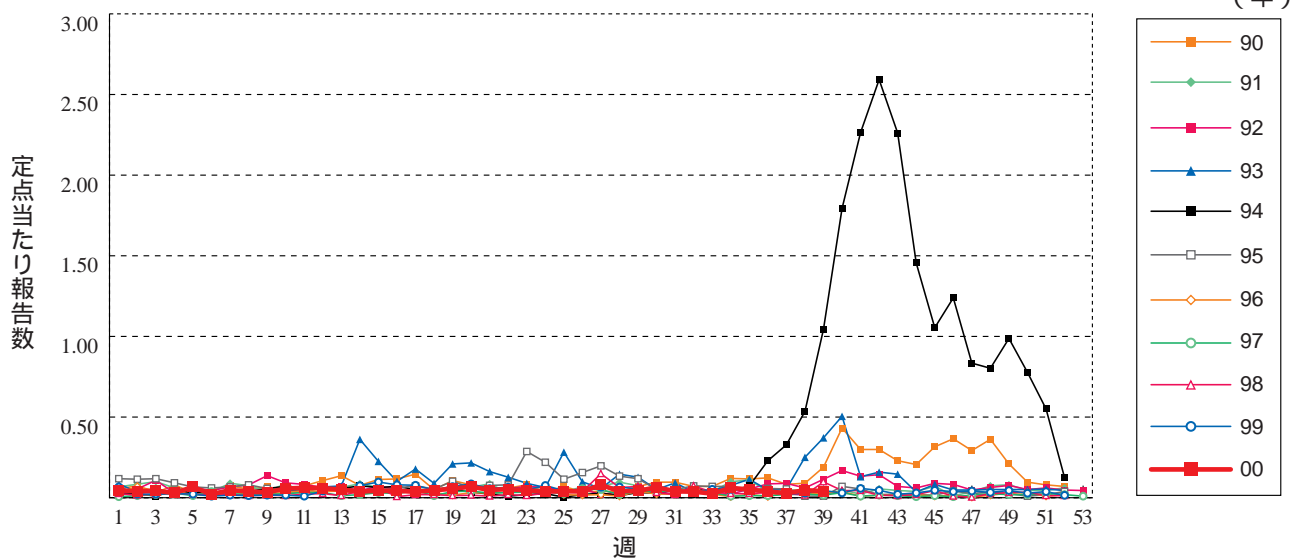
麻 疹 (成人麻疹を除く) 1999年の12週以前は成人麻疹を含む



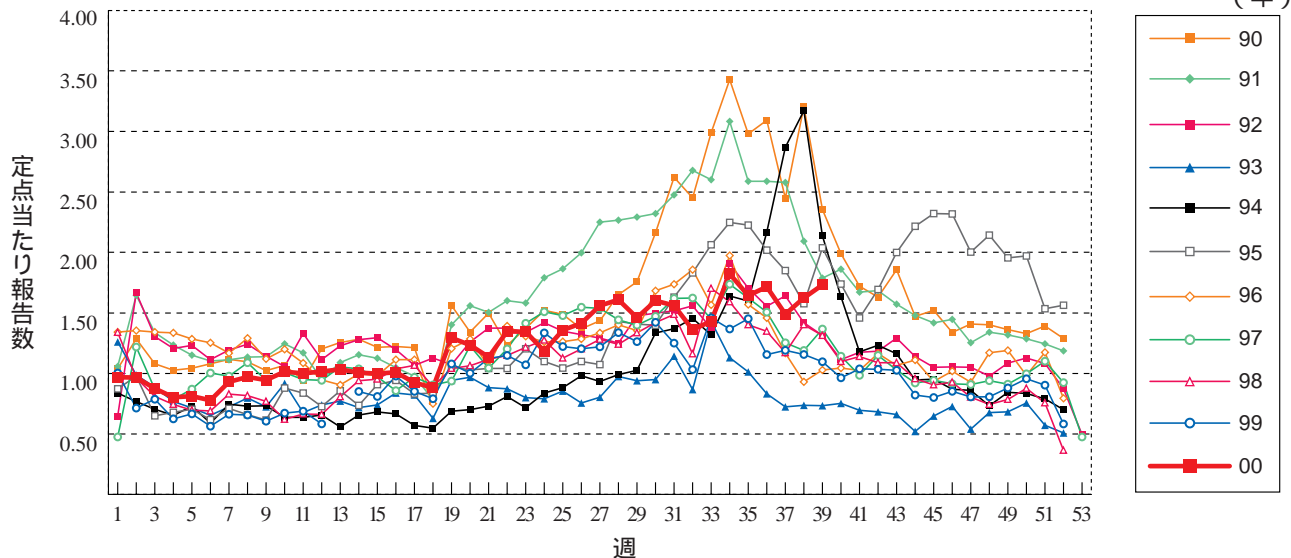
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎

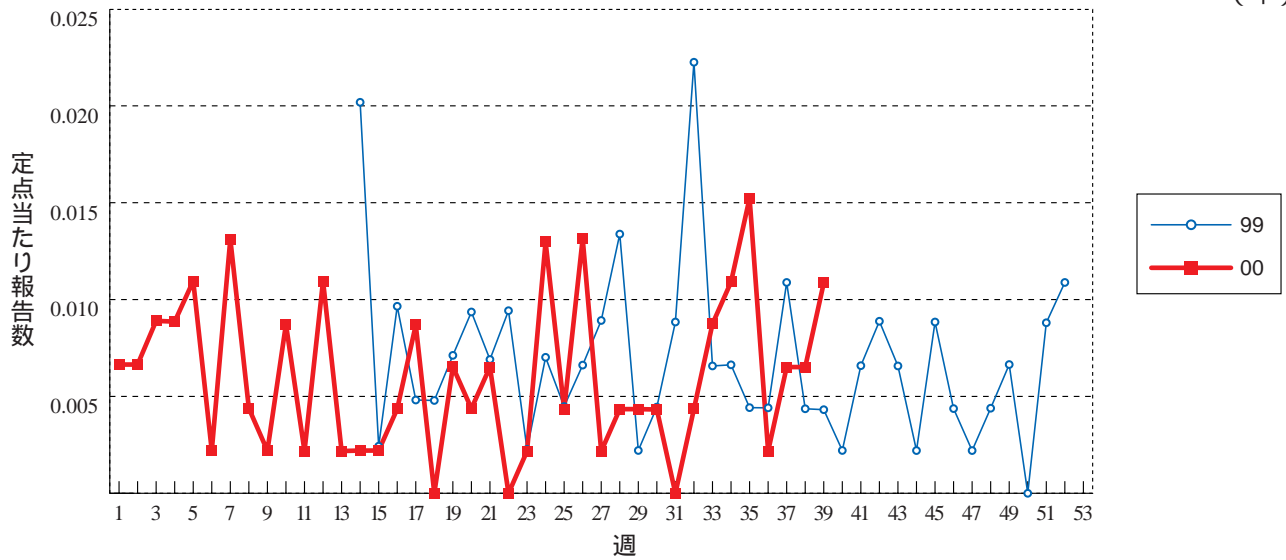


流行性角結膜炎



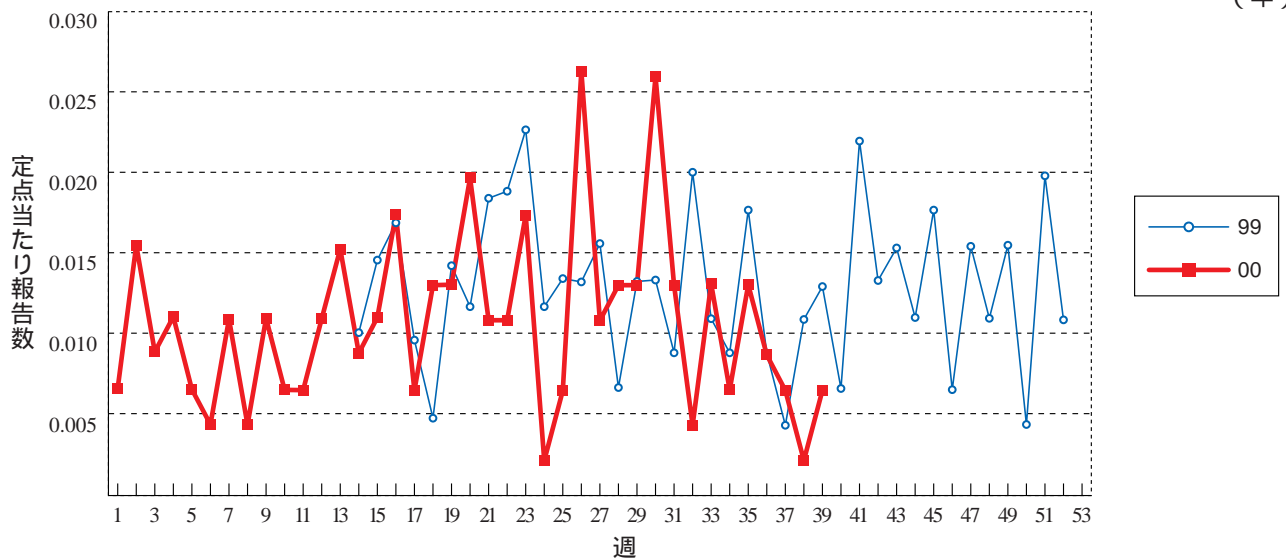
急性脳炎 (日本脳炎を除く)

(年)



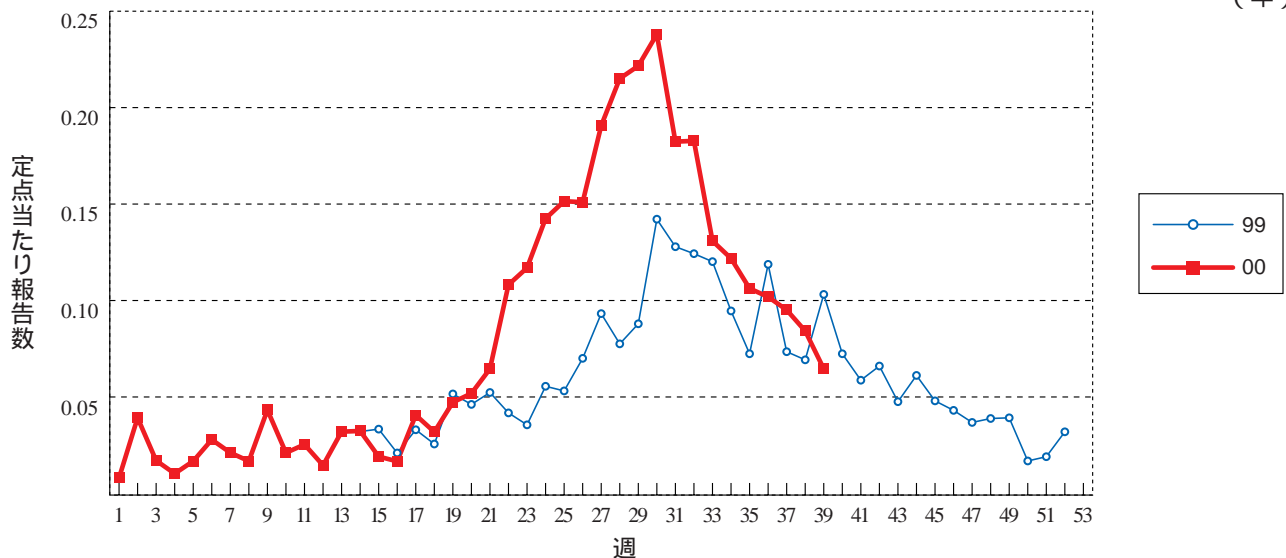
細菌性髄膜炎

(年)



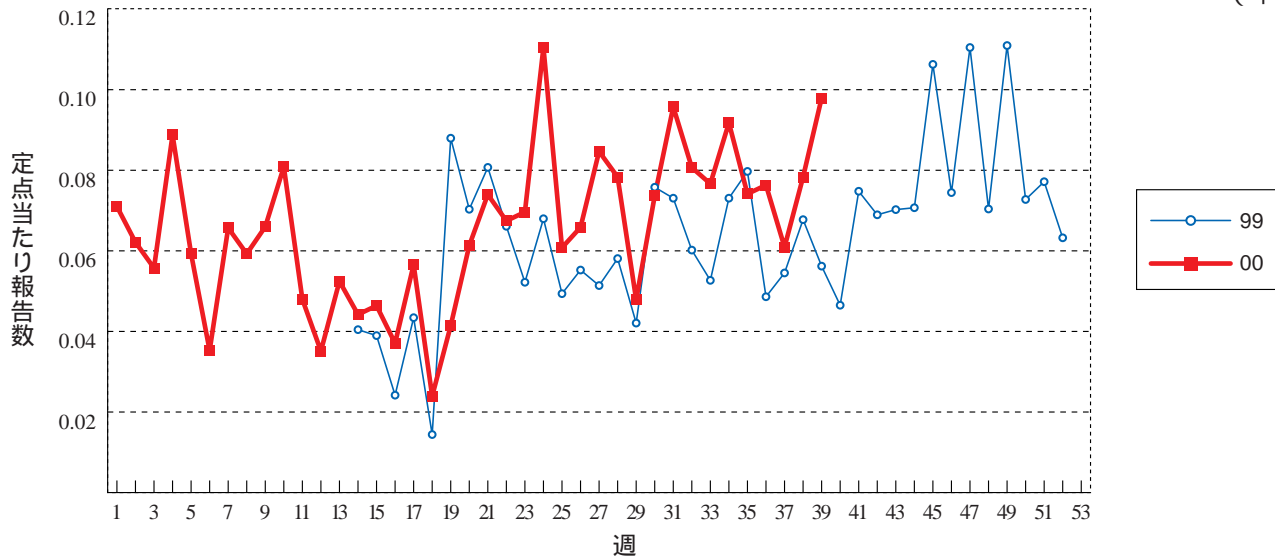
無菌性髄膜炎

(年)



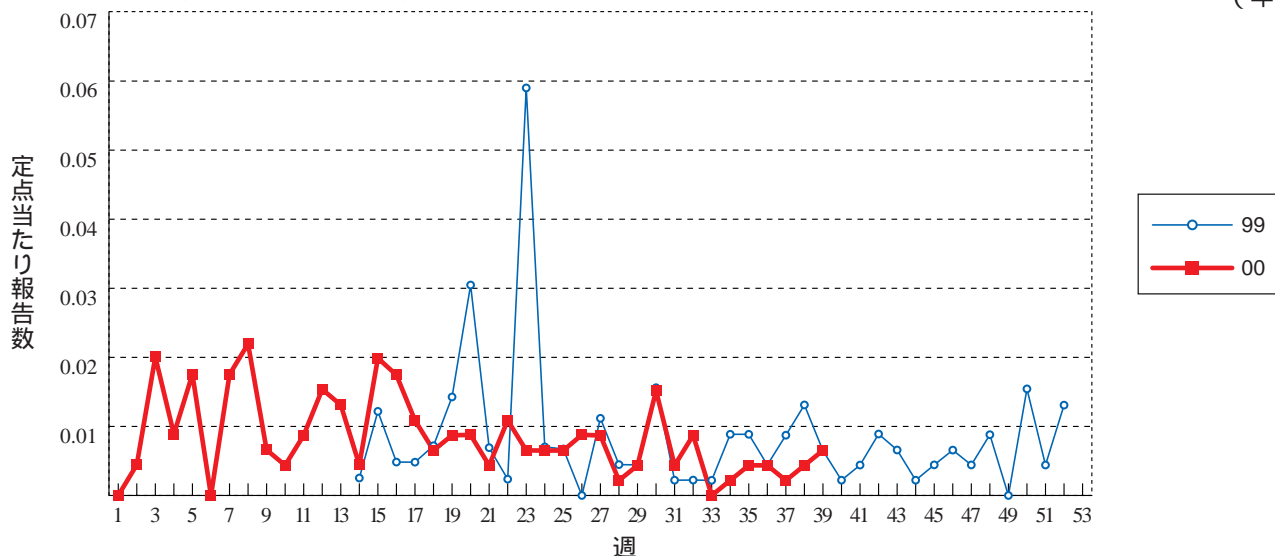
マイコプラズマ肺炎

(年)



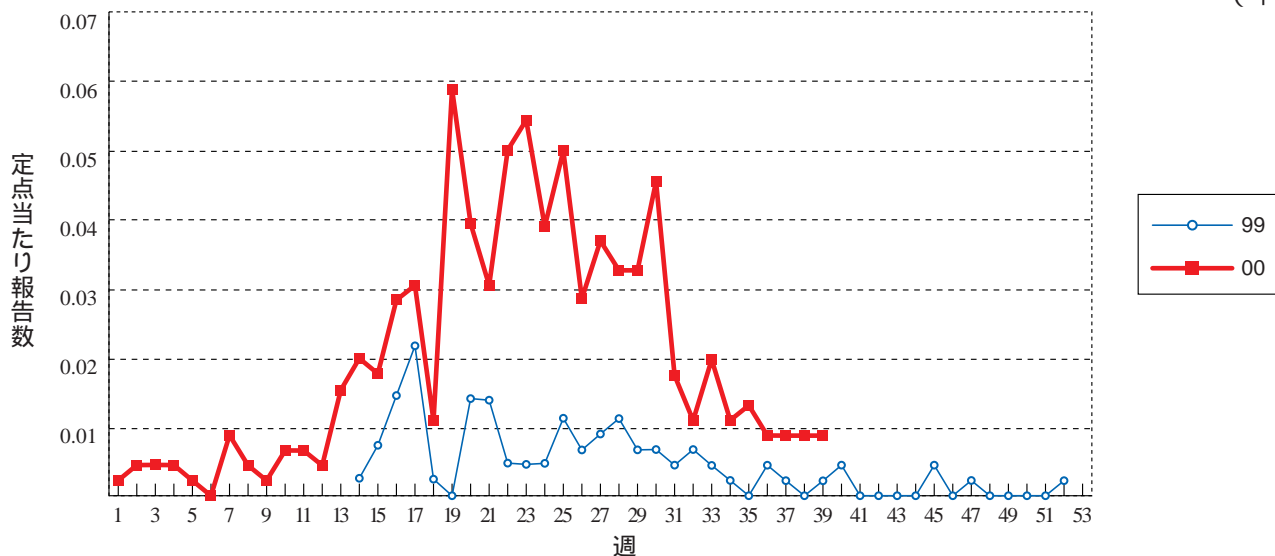
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)

(年)



成人麻疹

(年)





39週のデータ

注)表中の報告数は10月6日集計分であり、その後の報告数は次週以降の累計に反映されます。

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年39週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		コレラ		細菌性赤痢		腸チフス		バラチフス	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	42	14	575	1	73	1	15
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	17	-	3	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	5	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	2	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	2	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	3	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	24	-	4	-	3
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	113	1	13	1	7
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	46	-	4	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	1	-	1
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	10	-	4	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	2	39	-	5	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	-	-	-	1
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	1	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	19	-	1	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	54	-	7	-	3
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	21	-	7	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	13	-	3	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	1	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	9	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	29	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年39週

	急性灰白髄炎		ジフテリア		腸管出血性大腸菌感染症		アメーバ赤痢		エキノコックス症		黄熱		オウム病		回歸熱		ウイルス性肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	1	-	1	100	2822	7	279	-	18	-	-	-	14	-	-	14	770
北海道	-	-	-	-	2	86	-	4	-	17	-	-	-	-	-	-	-	12
青森県	-	-	-	-	-	36	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岩手県	-	-	-	-	2	97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
宮城県	-	-	-	-	-	52	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
秋田県	-	-	-	-	2	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
山形県	-	-	-	-	2	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
福島県	-	-	-	-	-	16	-	3	-	1	-	-	-	1	-	-	-	3
茨城県	-	-	-	-	-	27	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
栃木県	-	-	-	1	-	14	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
群馬県	-	-	-	-	2	25	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
埼玉県	-	-	-	-	2	80	2	11	-	-	-	-	-	2	-	-	-	9
千葉県	-	-	-	-	1	83	-	12	-	-	-	-	-	2	-	-	-	12
東京都	-	-	-	-	9	241	2	69	-	-	-	-	-	3	-	-	2	83
神奈川県	-	-	-	-	3	148	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	1	32
新潟県	-	-	-	-	3	18	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
富山県	-	-	-	-	-	46	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
石川県	-	-	-	-	-	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
福井県	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	2	16	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
長野県	-	-	-	-	-	22	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4
岐阜県	-	-	-	-	2	24	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
静岡県	-	-	-	-	-	31	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33
愛知県	-	-	-	-	29	186	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24
三重県	-	-	-	-	2	37	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
滋賀県	-	-	-	-	-	26	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
京都府	-	-	-	-	4	42	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27
大阪府	-	-	-	-	10	287	2	47	-	-	-	-	-	1	-	-	-	87
兵庫県	-	-	-	-	2	145	-	27	-	-	-	-	-	-	-	-	2	85
奈良県	-	-	-	-	-	21	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
和歌山県	-	-	-	-	-	35	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
鳥取県	-	-	-	-	-	26	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	4	71	-	5	-	-	-	-	-	2	-	-	1	28
広島県	-	-	-	-	4	98	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19
山口県	-	-	-	-	1	31	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
徳島県	-	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	31
香川県	-	-	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
愛媛県	-	-	-	-	-	22	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22
高知県	-	-	-	-	-	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
福岡県	-	-	-	-	6	267	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	5	37
佐賀県	-	-	-	-	-	42	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
長崎県	-	-	-	-	-	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
熊本県	-	-	-	-	2	27	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
大分県	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
宮崎県	-	1	-	-	2	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15
鹿児島県	-	-	-	-	1	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
沖縄県	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

平成12年39週

	Q 熱		狂 犬 病		クリプト スポリジウム症		クロイツフェルト ・ヤコブ病		劇症型溶血性 レンサ球菌感染症		後天性 免疫不全症候群		コクシジ オイデス症		ジアルジア症		腎症候性出血熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	1	15	-	-	-	3	-	69	-	36	12	557	-	1	1	69	-	-
北海道	1	7	-	-	-	-	-	2	-	1	-	7	-	-	-	2	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	4	-	-	-	-	-	3	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	38	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	14	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	9	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	3	1	30	-	-	-	4	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	2	-	3	-	3	2	47	-	-	-	2	-	-
東京都	-	-	-	-	-	1	-	8	-	2	4	219	-	1	-	13	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	3	-	33	-	-	-	8	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	-	-	-	3	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	7	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	4	-	-	-	-	-	3	-	2	1	16	-	-	1	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	7	-	3	-	13	-	-	-	2	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	5	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	34	-	-	-	8	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	5	1	14	-	-	-	7	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	2	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	8	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年39週

	髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風疹症候群		炭疽		ツツガムシ病		デング熱		日本紅斑熱		日本脳炎		乳児ポツリヌス症		梅毒	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	10	-	1	-	-	2	220	-	14	1	21	-	5	-	-	3	559
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
青森県	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
山形県	-	-	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
福島県	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
群馬県	-	-	-	-	-	-	1	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	14
千葉県	-	2	-	-	-	-	-	10	-	-	-	6	-	-	-	-	-	19
東京都	-	1	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	84
神奈川県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
石川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
長野県	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
静岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	1	22
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	9
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
大阪府	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	97
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	6	-	-	-	-	-	35
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	7
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	5
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
島根県	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	16
広島県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
山口県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	19
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	3
福岡県	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	48
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
大分県	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鹿児島県	-	1	-	-	-	-	-	24	-	-	1	2	-	-	-	-	-	10
沖縄県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2

第3101表 報告数・累積報告数，疾病・都道府県別

平成12年39週

	破傷風		バンコマイシン耐性腸球菌感染症		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		ブルセラ症		発疹チフス		マラリア		ライム病		レジオネラ症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	70	1	27	-	-	-	-	-	-	-	-	1	119	-	9	-	122
北海道	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	9	-	-	
青森県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮城県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
秋田県	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
山形県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
茨城県	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	
栃木県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3	
群馬県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
埼玉県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	4	
千葉県	-	3	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	3	
東京都	-	5	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	1	49	-	-	7	
神奈川県	-	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	2	
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2	
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
石川県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長野県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
岐阜県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
静岡県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	28	
愛知県	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	5	
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
京都府	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
大阪府	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	3	
兵庫県	-	5	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
奈良県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
島根県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岡山県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
広島県	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	3	
山口県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
香川県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	4	
愛媛県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
福岡県	-	2	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	
佐賀県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
長崎県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
熊本県	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
宮崎県	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
鹿児島県	-	8	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年39週

	インフルエンザ		咽頭結膜熱		A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水 痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		百 日 咳	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	76	0.02	347	0.12	1630	0.54	5427	1.81	1705	0.57	4323	1.44	343	0.11	2703	0.90	91	0.03
北海道	1	0.00	5	0.03	120	0.83	142	0.98	106	0.73	249	1.72	19	0.13	115	0.79	1	0.01
青森県	1	0.02	-	-	9	0.22	12	0.29	34	0.83	83	2.02	4	0.10	13	0.32	-	-
岩手県	1	0.02	-	-	6	0.16	26	0.68	13	0.34	34	0.89	14	0.37	19	0.50	-	-
宮城県	-	-	1	0.02	50	0.85	152	2.58	43	0.73	146	2.47	5	0.08	70	1.19	1	0.02
秋田県	-	-	1	0.03	13	0.37	52	1.49	11	0.31	38	1.09	5	0.14	24	0.69	-	-
山形県	-	-	2	0.07	18	0.60	43	1.43	26	0.87	87	2.90	3	0.10	32	1.07	3	0.10
福島県	-	-	3	0.07	16	0.35	104	2.26	37	0.80	125	2.72	3	0.07	34	0.74	2	0.04
茨城県	3	0.03	1	0.01	38	0.53	180	2.50	40	0.56	104	1.44	9	0.13	57	0.79	-	-
栃木県	-	-	-	-	18	0.40	64	1.42	13	0.29	118	2.62	3	0.07	35	0.78	1	0.02
群馬県	-	-	5	0.08	63	1.02	72	1.16	37	0.60	32	0.52	7	0.11	55	0.89	1	0.02
埼玉県	4	0.02	23	0.14	113	0.71	337	2.12	67	0.42	279	1.75	24	0.15	143	0.90	3	0.02
千葉県	1	0.01	10	0.08	71	0.55	192	1.50	60	0.47	365	2.85	28	0.22	112	0.88	2	0.02
東京都	-	-	15	0.11	33	0.23	230	1.62	46	0.32	179	1.26	17	0.12	72	0.51	1	0.01
神奈川県	21	0.07	10	0.05	77	0.38	310	1.51	87	0.42	146	0.71	17	0.08	229	1.12	3	0.01
新潟県	-	-	-	-	53	0.88	118	1.97	72	1.20	85	1.42	11	0.18	66	1.10	6	0.10
富山県	2	0.04	1	0.03	27	0.93	68	2.34	11	0.38	51	1.76	-	-	25	0.86	-	-
石川県	-	-	6	0.21	3	0.10	84	2.90	13	0.45	63	2.17	1	0.03	17	0.59	1	0.03
福井県	-	-	2	0.10	21	1.00	80	3.81	21	1.00	56	2.67	4	0.19	24	1.14	-	-
山梨県	7	0.17	-	-	15	0.60	32	1.28	14	0.56	54	2.16	-	-	12	0.48	-	-
長野県	-	-	21	0.40	32	0.62	112	2.15	31	0.60	166	3.19	19	0.37	50	0.96	-	-
岐阜県	6	0.07	2	0.04	62	1.17	59	1.11	37	0.70	124	2.34	3	0.06	45	0.85	2	0.04
静岡県	1	0.01	12	0.14	35	0.41	187	2.17	23	0.27	202	2.35	5	0.06	91	1.06	1	0.01
愛知県	4	0.02	10	0.05	88	0.48	266	1.46	93	0.51	312	1.71	38	0.21	167	0.92	9	0.05
三重県	2	0.03	5	0.11	10	0.22	129	2.87	54	1.20	90	2.00	4	0.09	49	1.09	-	-
滋賀県	-	-	6	0.19	28	0.90	42	1.35	15	0.48	30	0.97	1	0.03	24	0.77	2	0.06
京都府	1	0.01	3	0.04	29	0.38	190	2.50	28	0.37	65	0.86	4	0.05	48	0.63	-	-
大阪府	5	0.02	37	0.19	95	0.50	281	1.47	102	0.53	74	0.39	9	0.05	151	0.79	9	0.05
兵庫県	-	-	31	0.23	44	0.33	288	2.17	87	0.65	148	1.11	6	0.05	127	0.95	6	0.05
奈良県	-	-	2	0.06	8	0.23	73	2.09	26	0.74	26	0.74	-	-	40	1.14	1	0.03
和歌山県	-	-	4	0.13	20	0.65	25	0.81	19	0.61	23	0.74	1	0.03	32	1.03	-	-
鳥取県	-	-	4	0.21	77	4.05	75	3.95	6	0.32	81	4.26	2	0.11	24	1.26	2	0.11
島根県	-	-	1	0.04	2	0.09	46	2.00	8	0.35	90	3.91	2	0.09	17	0.74	2	0.09
岡山県	-	-	8	0.15	15	0.28	95	1.76	37	0.69	30	0.56	1	0.02	49	0.91	1	0.02
広島県	2	0.02	25	0.33	40	0.53	123	1.64	31	0.41	90	1.20	4	0.05	69	0.92	5	0.07
山口県	-	-	10	0.20	33	0.67	101	2.06	41	0.84	90	1.84	7	0.14	63	1.29	-	-
徳島県	-	-	19	0.83	6	0.26	39	1.70	20	0.87	10	0.43	1	0.04	23	1.00	2	0.09
香川県	-	-	8	0.25	8	0.25	35	1.09	26	0.81	25	0.78	4	0.13	41	1.28	2	0.06
愛媛県	-	-	14	0.36	23	0.59	110	2.82	33	0.85	42	1.08	3	0.08	35	0.90	1	0.03
高知県	-	-	6	0.19	15	0.48	38	1.23	14	0.45	42	1.35	1	0.03	27	0.87	2	0.06
福岡県	-	-	9	0.11	29	0.37	225	2.85	39	0.49	25	0.32	11	0.14	77	0.97	4	0.05
佐賀県	1	0.03	1	0.04	6	0.26	23	1.00	23	1.00	15	0.65	5	0.22	43	1.87	-	-
長崎県	-	-	-	-	17	0.39	52	1.18	25	0.57	21	0.48	2	0.05	36	0.82	4	0.09
熊本県	-	-	3	0.06	25	0.51	86	1.76	35	0.71	18	0.37	19	0.39	46	0.94	-	-
大分県	1	0.02	11	0.31	38	1.06	93	2.58	32	0.89	79	2.19	9	0.25	55	1.53	5	0.14
宮崎県	-	-	10	0.27	27	0.73	150	4.05	21	0.57	78	2.11	3	0.08	55	1.49	-	-
鹿児島県	11	0.11	-	-	24	0.40	177	2.95	27	0.45	9	0.15	4	0.07	49	0.82	4	0.07
沖縄県	1	0.02	-	-	30	0.88	9	0.26	21	0.62	24	0.71	1	0.03	16	0.47	2	0.06

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

平成12年39週

	風 疹		ヘルパンギーナ		麻 疹 (成人麻疹を除く)		流行性耳下腺炎		急性出血性 結膜炎		流行性角結膜炎		急性脳炎 (日本脳炎を除く)		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	36	0.01	1773	0.59	219	0.07	2799	0.94	26	0.04	1091	1.73	5	0.01	3	0.01	30	0.07
北海道	1	0.01	115	0.79	13	0.09	182	1.26	-	-	27	0.93	-	-	-	-	-	-
青森県	1	0.02	9	0.22	5	0.12	26	0.63	-	-	8	0.73	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	15	0.39	-	-	8	0.21	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
宮城県	1	0.02	46	0.78	8	0.14	19	0.32	2	0.18	7	0.64	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	49	1.40	-	-	25	0.71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	63	2.10	-	-	9	0.30	1	0.13	18	2.25	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	81	1.76	2	0.04	9	0.20	-	-	16	1.23	-	-	-	-	-	-
茨城県	1	0.01	17	0.24	5	0.07	37	0.51	-	-	88	5.50	-	-	-	-	-	-
栃木県	1	0.02	9	0.20	2	0.04	12	0.27	-	-	11	0.92	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	6	0.10	-	-	130	2.10	-	-	32	2.29	-	-	1	0.10	1	0.10
埼玉県	3	0.02	57	0.36	5	0.03	294	1.85	-	-	51	1.42	-	-	-	-	-	-
千葉県	3	0.02	20	0.16	10	0.08	132	1.03	1	0.03	73	2.21	-	-	-	-	-	-
東京都	6	0.04	43	0.30	14	0.10	134	0.94	-	-	33	2.36	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	70	0.34	8	0.04	217	1.06	5	0.12	105	2.50	-	-	-	-	2	0.17
新潟県	1	0.02	9	0.15	1	0.02	98	1.63	-	-	3	0.33	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	81	2.79	-	-	6	0.21	1	0.14	4	0.57	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	28	0.97	-	-	2	0.07	-	-	13	1.86	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	25	1.19	2	0.10	35	1.67	1	0.33	1	0.33	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	4	0.16	1	0.04	8	0.32	-	-	2	0.67	-	-	1	0.10	3	0.30
長野県	-	-	62	1.19	-	-	26	0.50	1	0.10	20	2.00	1	0.09	-	-	1	0.09
岐阜県	-	-	17	0.32	1	0.02	51	0.96	-	-	22	1.83	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	59	0.69	2	0.02	138	1.60	-	-	24	1.14	-	-	-	-	1	0.11
愛知県	2	0.01	67	0.37	4	0.02	183	1.01	1	0.03	52	1.49	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	30	0.67	-	-	55	1.22	-	-	6	0.50	-	-	-	-	2	0.22
滋賀県	1	0.03	4	0.13	4	0.13	19	0.61	1	0.14	12	1.71	-	-	-	-	1	0.17
京都府	1	0.01	13	0.17	3	0.04	60	0.79	-	-	40	2.22	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	109	0.57	22	0.12	142	0.74	4	0.08	56	1.08	-	-	-	-	1	0.13
兵庫県	-	-	41	0.31	5	0.04	91	0.68	2	0.06	55	1.57	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	12	0.34	14	0.40	26	0.74	-	-	36	4.00	1	0.20	-	-	-	-
和歌山県	-	-	36	1.16	1	0.03	11	0.35	-	-	3	0.75	-	-	-	-	-	-
鳥取県	1	0.05	8	0.42	-	-	22	1.16	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1.20
島根県	-	-	15	0.65	-	-	16	0.70	-	-	2	0.67	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.04	37	0.69	6	0.11	19	0.35	-	-	12	1.00	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	28	0.37	4	0.05	63	0.84	1	0.05	17	0.85	1	0.05	-	-	3	0.14
山口県	-	-	55	1.12	5	0.10	53	1.08	-	-	20	2.22	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	12	0.52	-	-	4	0.17	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-
香川県	1	0.03	21	0.66	-	-	27	0.84	-	-	1	0.33	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	77	1.97	-	-	19	0.49	-	-	30	4.29	-	-	-	-	1	0.17
高知県	1	0.03	44	1.42	34	1.10	42	1.35	1	0.33	4	1.33	-	-	-	-	-	-
福岡県	1	0.01	12	0.15	10	0.13	85	1.08	-	-	56	3.11	2	0.13	1	0.07	2	0.13
佐賀県	-	-	12	0.52	1	0.04	26	1.13	-	-	2	0.50	-	-	-	-	-	-
長崎県	1	0.02	24	0.55	2	0.05	35	0.80	2	0.25	39	4.88	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	51	1.04	2	0.04	121	2.47	-	-	39	4.33	-	-	-	-	3	0.20
大分県	2	0.06	68	1.89	16	0.44	23	0.64	1	0.20	4	0.80	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	89	2.41	2	0.05	25	0.68	-	-	13	3.25	-	-	-	-	1	0.14
鹿児島県	4	0.07	22	0.37	3	0.05	25	0.42	-	-	5	0.83	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	1	0.03	2	0.06	9	0.26	1	0.10	17	1.70	-	-	-	-	2	0.29

第3102表 報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別 平成12年39週

	マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		成人麻疹	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総 数	45	0.10	3	0.01	4	0.01
北海道	4	0.17	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-
岩手県	3	0.15	-	-	-	-
宮城県	4	0.33	2	0.17	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	2	0.22	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-
千葉県	1	0.08	-	-	-	-
東京都	1	0.04	-	-	-	-
神奈川県	1	0.08	-	-	-	-
新潟県	1	0.08	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-
福井県	1	0.20	-	-	-	-
山梨県	4	0.40	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	4	0.31	-	-	1	0.08
三重県	-	-	-	-	-	-
滋賀県	1	0.17	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-
兵庫県	1	0.07	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	1	0.09	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	2	0.40	1	0.20	1	0.20
広島県	1	0.05	-	-	-	-
山口県	1	0.13	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	4	0.67	-	-	-	-
高知県	1	0.14	-	-	1	0.14
福岡県	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	4	0.27	-	-	-	-
大分県	1	0.10	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-
沖縄県	2	0.29	-	-	-	-

感染症週報 第2巻、第39号 平成12年10月16日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生省保健医療局結核感染症課
 厚生省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター
 〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1
 T E L : 03-5285-1111
 F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
 < 国立感染症研究所 感染症情報センター >
<http://www.mhw.go.jp/>
 < 厚生省 >
<http://www.narita-airport.or.jp/quarantine/>
 < 成田空港検疫所 >
<http://www.forth.go.jp/>
 < 旅行者のための海外感染症情報 >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。